

北海道歯科衛生士専門学校

昼間部 1 年生 シラバス

## 1. 生物

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担当教員名	井上 貴一郎
授業科目概要	生物の誕生から進化、生物を構成する要素、について学ぶ
目的	医療従事者として、また歯科衛生士として必ず知っていなければならない人間の体の構造と機能を理解するために必要な生物学の基礎的事項を習得する。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物とは何かを理解する。</li> <li>・ 生命誕生の過程を概説できる。</li> <li>・ 生物進化を学び生命の変遷を理解する。</li> <li>・ 生命を成り立たせている基本的物質を理解する。</li> <li>・ 生命の基本単位である細胞を知り、理解する。</li> <li>・ 細胞の構造・機能を理解し、概説できる。</li> <li>・ 細胞分裂について学び、生体の組織、器官、器官系について理解する。</li> <li>・ 生殖、その際行われる減数分裂を学び生命の連続性を理解する。</li> <li>・ 遺伝とその法則を理解する。</li> <li>・ 遺伝子の構造と機能を知り、概説できる。</li> <li>・ 遺伝子を働かせる仕組みを理解する。</li> <li>・ 受精から個体発生までの過程を知って発生について理解する。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	授業プリントを配布する
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	生物の誕生と進化・生物を構成する物質①
2	生物を構成する物質②
3	生物を構成する物質③ 細胞①
4	細胞②
5	生殖と遺伝
6	組織①
7	組織②
8	人体発生

## 2. 生化学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	西方 真
授業科目概要	教科書として全国歯科衛生士教育協会編集の最新歯科衛生士教本である「人体の構造と機能2 栄養と代謝（医歯薬出版）」を用い、生命活動の概要、歯・口の生化学の内容について講義する。 化学の基礎から習得することによって、生体における様々な化学物質や化学反応を理解する。 さらに、より専門的に口腔の結合組織、歯の構成成分、唾液など歯・口腔の生化学について学習する。
目的	この授業の目的は、生命現象を化学的な見地から理解させることにある。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生化学の基礎となる原子、分子、構造式について理解する。</li> <li>・長さ、重さ、体積、濃度の単位を理解する。</li> <li>・タンパク質について構造、代謝、生理機能について理解する。</li> <li>・酵素の役割について理解する。</li> <li>・糖質について、糖質の種類、構造、代謝、生理機能について理解する。</li> <li>・脂質について、構造、代謝、生理機能について理解する。</li> <li>・口腔組織を構成する結合組織の概略を理解する。</li> <li>・歯の構成成分について理解する。</li> <li>・唾液の成分、唾液の果たす役割について理解する。</li> <li>・歯の堆積物であるプラーク、虫歯の発生について理解する。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する。</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う。</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80点～89点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版
留意事項	本授業の目的は、国家試験に合格するためだけではなく、歯科衛生士として身に付けるべき最低限の知識を習得することである。そのため、学習内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画

回	内 容
1	生化学の基礎: 1 物質の構造、原子の種類、大きさ、重さ
2	生化学の基礎: 2 分子、構造式、化学結合
3	生化学の基礎: 3 長さ、重さ、体積の単位
4	生化学の基礎: 4 濃度の表わし方
5	生体の構成要素: 1 タンパク質① アミノ酸、ペプチド
6	生体の構成要素: 2 タンパク質② 分解と合成
7	生体の構成要素: 3 タンパク質③ 酵素
8	生体の構成要素: 4 糖質① 単糖、二糖、多糖
9	生体の構成要素: 5 糖質② 分解、血糖値
10	生体の構成要素: 6 脂質 構造、脂肪酸の種類と性質
11	物質代謝とエネルギー、カロリー計算
12	歯・口の生化学: 1 結合組織
13	歯・口の生化学: 2 歯の構成成分
14	歯・口の生化学: 3 唾液
15	歯・口の生化学: 4 カルシウムの調節、プラーク、虫歯

## 3. 栄養学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	加藤 幾子
授業科目概要	日本人の食事摂取基準の意義を理解し、各栄養素の消化・吸収・代謝と栄養的な特徴を理解する。 又正しい食生活の意義を理解し歯科臨床現場における栄養指導法を学ぶ
目的	対象者がこれまでの食生活上の問題点を自覚し、積極的かつ自発的にそれを改善すべく指導できるようにする。
学習目標	歯科保健指導の一環として食生活の改善が必要とされる対象者に対し、栄養学の知識をもとにカウンセリングを行い対象者又は家族が問題点を理解し改善することができるよう、個人の食生活の把握・分析・的確な指導目標を立ててサポートすることができる。又自らの食生活の改善点も理解し、正しい食生活をおくることができる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能2 栄養と代謝」（医歯薬出版） 適時資料配布
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	Ⅲ編 栄養の基礎 1章 栄養の基礎知識 ①食生活と栄養 ②栄養素の消化・吸収
2	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 糖質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収
3	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 タンパク質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収 ④タンパク質過剰と不足
4	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 脂質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収
5	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 ビタミン ①種類 ②栄養的意味 ③ビタミンの過剰と不足
6	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 無機質 ①種類 ②栄養的意味 ③無機質の過剰と不足
7	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 水・食物繊維 ①種類 ②栄養的意味 ③必要量と給源
8	Ⅲ編 栄養の基礎 2章 食事摂取基準 ①エネルギー必要量 ②基礎代謝 ③ 日本人の食事摂取基準
9	Ⅳ編 食生活と食品 1章 食生活と健康 ①国民の健康と栄養の現状 ②望ましい食生活 国民健康・栄養調査、健康日本21
10	Ⅳ編 食生活と食品 1章 食生活と健康 ②望ましい食生活 。食事バランスガイド
11	Ⅳ編 食生活と食品 1章 食生活と健康 ②望ましい食生活 特別用途食品制度、食事環境、食事計画
12	Ⅳ編 食生活と食品 1章 食生活と健康 ③ライフステージ別の栄養と調理 1、成長期における栄養と調理の特性
13	Ⅳ編 食生活と食品 1章 食生活と健康 2 成人期における栄養と調理の特性 3、高齢期における栄養と調理の特性
14	Ⅳ編 食生活と食品 2章 食べ物と健康 ①食品の成分と分類 ②食べ物の物性
15	まとめ 栄養学を学び自身の食生活を考察する

## 4. 教養基礎

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	<p>歯科医療現場では、薬品の取り扱いに関する計算や、患者指導に用いる資料の計算が必要になる。そのために基礎的な計算方法を習得する。</p> <p>また、社会人として必要な国語の基本を学び、言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。</p>
目的	<p>歯科医療現場で必要となる基礎的な計算方法を習得する。</p> <p>幅広い年齢層に対応できるよう正しい日本語を身につけ、社会人として必要な言語表現を習得する。</p>
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な四則計算ができる。</li> <li>2. 単位の換算ができる。</li> <li>3. 比を用いた計算ができる。</li> <li>4. 濃度の計算ができる。</li> <li>5. 自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。</li> </ol>
成績評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績, 出席状況, 受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」: 90点以上, 「優」: 80~89点, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下</li> </ul>
教材	自主教材
留意事項	



授業計画

回	内 容
1	四則計算
2	単位の換算
3	比を用いた計算
4	濃度の計算
5	国語の基礎①
6	国語の基礎②
7	文章表現①
8	文章表現②

## 5. 心理学

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担当教員名	後藤 聡
授業科目概要	心理学の分野は多岐にわたっている。その中から、本授業では人間関係や社会との関わりについての内容を扱う。日常の人間関係や社会との関わりで生じる心理現象、カウンセリングという人間関係における話の聴き方について論じる。毎回異なったテーマを設け、理論、具体的事例、科学的根拠となる実証的研究成果などを含めて、アクティビティや発問などを取り入れながら授業を展開する。
目的	医療スタッフや患者との対人関係を円滑にするための技法を身につける。
学習目標	<p>医療の場では人間関係が不可欠である。その対象となる人間と良好な関係を形成し、維持するためには、相手を理解することだけでは不十分である。人間関係の場面や社会から生じる自分の心理状況、話の聴き方と話し方が相手に対してどのように影響するのかを知り、必要に応じて自分を望ましい方向へ調整することも必要である。以上を考慮して本講義での目標を以下とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の人間関係や社会の中で生じる心理現象について理解する。</li> <li>・ 人間関係において自分に生じる心の状態に気づく。</li> <li>・ 医療の対象である人間の理解に役立てる。</li> <li>・ 患者との良好な関係を形成、維持するため、授業内容を役立てられるように応用的な思考を経験する。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> </ul> <p>筆記試験 70% 提出物 30% 受講態度 (私語や講義と関係ない行為を行った場合は減点することがある。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「秀」 : 90 点以上, 「優」 : 80~89 点, 「良」 : 70~79 点, 「可」 : 60~69 点, 「不可」 : 59 点以下</li> </ul>
教材	自作のプリント
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義内容に関する疑問がある場合は積極的に質問をすること。</li> <li>・ 私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。</li> </ul>

授業計画

回	内 容
1	ガイダンス 思考を柔軟にするトレーニング テーマ：同調行動と集団的無知
2	テーマ：自己呈示
3	テーマ：ステレオタイプと偏見
4	テーマ：対人認知
5	テーマ：援助行動
6	テーマ：社会的ジレンマ
7	テーマ：社会的現実
8	テーマ：カウンセリングの視点による話を聴くときの基本的態度

## 6. 英語

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担当教員名	孔 令群
授業科目概要	高等学校までに学習した英語力をもとにして、歯科関連の文章を読む能力、語彙への理解力、応用力及び歯科衛生士として必要な英語コミュニケーション能力を育成する。
目的	診療室でももにとりかわされるであろう基礎的会話力を身につける。さらに歯科常用英語の書き、読み、聴きを習得させ、積極的に英語の歯科臨床への応用力を育成する。
学習目標	<p>〈一般目標〉</p> <p>英語を聞き話す基礎力をしっかり身につけ、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識を育成する。</p> <p>〈行動目標〉</p> <p><b>【リスニング】</b></p> <p>通常スピードの英会話を聞き取れるようになる。</p> <p><b>【スピーキング】</b></p> <p>正しい発音で英会話できる。</p> <p>正しいイントネーションで英会話できる。</p> <p>正しいリズムで英会話できる。</p> <p><b>【歯科用語】</b></p> <p>英語の歯科用語の意味がわかる。</p> <p>英語の歯科用語の発音がわかる。</p> <p>英語の歯科用語が現場で応用できる。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科医院での実用英会話 第2版 音声DL付き</li> <li>2. 自主教材</li> </ol>
留意事項	AV教材を活用する。

授業計画

回	内 容
1	1. 歯科衛生士のための実用英会話 ① 受付での電話応対 2. 歯科重要単語 〈① 歯科に携わるもの〉
2	1. 歯科衛生士ための実用英会話 ②受付での初診応対 2. 歯科重要単語 〈② 歯科学〉
3	1. 歯科衛生士のための英会話 ③問診 2. 歯科重要単語 〈③ 検査〉
4	1. 歯科衛生士のための英会話 ④歯周病 2. 歯科重要単語 〈④ 部位の名称〉
5	1. 歯科衛生士のための英会話 ⑤歯周検査 2. 歯科重要単語 〈⑤ 痛みの種類〉
6	1. 歯科衛生士のための英会話 ⑥ブラッシング指導 2. 歯科重要単語 〈⑥ 全身疾患〉 〈⑥ 歯科疾患〉
7	1. 歯科衛生士のための英会話 ⑦スケーリング 2. 歯科重要単語 〈⑦ 歯科治療〉
8	1. 歯科衛生士のための英会話 ⑧抜歯 2. 歯科重要単語 〈⑧ 歯の名称〉

## 7. 情報処理

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	コンピュータ社会の現代では歯科衛生士であってもコンピュータ操作は必須であり、その中でもWordとExcel、PowerPointは使いこなしたいソフトである。 本講義ではコンピュータの基礎的知識からWord、Excel、PowerPointの操作までを行う。
目的	IT社会に対応する力を育成する。
学習目標	1、Word、Excel、PowerPointの概要、機能を理解し、用途に応じてそれぞれのソフトを使うことができる。 2、各ソフトのウィンドウの名称、活用法を理解する。 3、ブラインドタッチでPC操作を行うことができる。 4、文書やチラシを作成することができる。 5、データベースの作成ができる 6、数式を使用し、統計処理ができる。 7、データに適したグラフを選択し、作成することができる。 8、プレゼンテーションのためのスライドを作成することができる。
成績評価方法	1. 講義終了後の筆記試験、実技試験（プレゼンテーション） 2. 講義への取り組み、学習態度 3. 課題の提出（コンピュータ実演）により総合評価を行い合否判定する。 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下以上
教材	適宜プリント配布
留意事項	常にPC操作時の姿勢を意識し、ホームポジションを心がけること。

## 授業計画

回	内容
1	コンピュータの基礎知識 Word演習 Wordで出来ること 文字の入力 ホームポジション Wordで自己紹介文の作成
2	Word演習 Wordの機能 文書の作成
3	Word演習 文書の編集 作品の作成
4	Word演習 作品の完成
5	Word演習 表現力をアップする機能

回	内 容
6	Excel 演習 Excel の概要 データの入力、数式の入力
7	Excel 演習 表の作成 関数の入力
8	Excel 演習 グラフの作成 データの並べ替え
9	Power Point 演習 基礎知識、画面構成 プレゼンテーションの作成演習 イラストや画像を挿入する 画面切り替え効果、アニメーション効果の設定
10	Power Point 演習 プレゼンテーションの作成
11	Power Point 演習 プレゼンテーションの作成
12	Power Point 演習 プレゼンテーションの完成
13	実技試験 Power Point を使ったプレゼンテーション
14	実技試験 Power Point を使ったプレゼンテーション
15	まとめ

## 8. 接遇作法

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	田中 みどり
授 業 科 目 概 要	<p>礼儀を押さえる事が、いかに重要か理解を深め、自己トレーニング法を導入し授業後も自分磨きができるよう個人指導強化の授業。</p> <p>好印象を与える要素を理解し、実践で表現できるように指導。</p> <p>「ケアコミュニケーション」のスキルアップをはかる。</p>
目 的	<p>接遇 イコール ケアである事を理解し、患者様に対してだけでなく人とのコミュニケーションを大切にできる学生を育成する。</p> <p>社会人としての心得を押さえ、自信をもって社会に羽ばたける学生を育てる。</p>
学 習 目 標	接遇を頭の理解にとどまらず、具体的に表現するテクニックを体得する
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	特になし (プリント配布)
留 意 事 項	必ず実技を伴うこと。



授業計画

回	内 容
1	医療従事者としての接遇とは 第一印象の重要性（セルフチェック） 患者様への好感度の高い接し方
2	好印象で信頼を得るには 声の演出（呼吸法・発声法・他） 感情移入
3	言葉遣い 敬語・表現法 心に響く話し方 報告・連絡・相談
4	立ち居振る舞い
5	来客対応 患者様優先の心づかい 誘導・戸の開閉・物授受・名刺取扱・上座・お茶コーヒーの出し方 他
6	電話対応基本 電話対応応用
7	クレーム対応 ケアコミュニケーション
8	ユニバーサル 試験対策

## 9. 解剖学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	吉田 重光
授業科目概要	教科書として全国歯科衛生士教育協会編集の最新歯科衛生士教本である「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）」を用い、解剖学の内容について講義する。 具体的には、解剖学総論、骨格系、筋系、脈管系、内臓学、神経・感覚器、内分泌の順に、体を系統別に分けて講義する
目的	この授業の目的は歯科医学の初学生である1年次学生が、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上で最も基礎となる、人体の正常な形態と構造についての基本的な知識を身につけさせることにある。
学習目標	人体の正常な形態と構造について学び、コデンタルスタッフとして必要な解剖学的知識を習得する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の区分、方向用語等を理解する。</li> <li>・骨の一般的な構造を理解するとともに、全身の骨についても理解を深める。</li> <li>・骨格筋の一般的な構造を理解するとともに、全身の筋についても理解を深める。</li> <li>・循環器系の基本構造を理解する。</li> <li>・消化器系の基本構造を理解する。</li> <li>・呼吸器系の基本構造を理解する。</li> <li>・神経系の基本構造を理解する。</li> <li>・感覚器系の基本構造を理解する。</li> <li>・泌尿生殖器系の基本構造を理解する。</li> <li>・内分泌系の基本構造とホルモンについて理解する。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】 最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 授業開始時に適宜プリント配布</p> <p>【参考書】 藤田恒夫 「入門人体解剖学」 南江堂（学内図書）</p>
留意事項	解剖学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画

回	内 容
1	総論・方向用語・骨格
2	骨（頭部・体幹・体肢）
3	骨格筋（頭顔面・体幹）
4	循環器（総論・心臓）
5	循環器（動脈・静脈・リンパ管）
6	消化器（口腔・咽頭）
7	消化器（食道・胃・腸管）
8	呼吸器
9	神経（総論・脳）
10	神経（脊髄神経）
11	神経（自律神経）
12	感覚器（皮膚・視覚器）
13	感覚器（平衡聴覚器）
14	泌尿生殖器
15	内分泌

担当教員名	船橋 誠
授業科目概要	生体の生命維持のための機能と生体の思考・運動機能などを解明する学問です。その機能とは、細胞、組織、臓器において、化学反応、呼吸、血液、神経、ホルモンなどが関与し、食物の消化・吸収、栄養供給、排泄、生殖、感覚などの機能を生じ、また、運動、記憶、思考、睡眠などの機能をもたらす。この生体を維持する一連の機構を学びます。
目的	臨床歯科医学を学ぶにあたり必要な生理学の知識を修得することを目的とします。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>生命現象を理解するために、生体構成成分である細胞・組織・臓器の機能維持・恒常性維持のための機構の成り立ちを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>生体の構成成分を説明できる。</p> <p>細胞の基本的機能、特に細胞膜の役割、細胞分裂、遺伝子情報、エネルギー代謝などを説明できる。</p> <p>血液の構成成分は何か、その細胞の役割を説明できる。</p> <p>出血傾向(出血性素因)とは何か、血液型と輸血について説明できる。</p> <p>呼吸器の仕組みを理解する。換気の仕組み、肺胞でのガス交換、呼吸調節を理解する。</p> <p>肺活量とは何か説明できる。</p> <p>筋肉の種類と機能を説明できる。骨格筋の収縮様式を説明できる。</p> <p>筋の微細構造と筋収縮の仕組みを理解する。心筋の収縮の特徴を説明できる。</p> <p>神経系の構造と機能の単位(ニューロン、シナプス、神経繊維)を説明できる。</p> <p>興奮伝達の機序を理解できる。</p> <p>脊髄神経、脳神経、自律神経の機能を説明できる。</p> <p>中枢神経系の機能(反射中枢、統合作用)を理解できる。</p> <p>感覚性伝導路、運動性伝導路を説明できる。</p> <p>延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳の機能の代表的なものを説明できる。</p> <p>脳波を理解できる。</p> <p>感覚の分類を理解できる。視覚、聴覚、臭覚、平衡感覚、体性・内臓感覚の仕組みを理解できる。</p> <p>消化、吸収とは何か、また、消化管の名称を説明出来る。胃、小腸、大腸の主な働きを説明できる。</p> <p>消化液の代表的な消化酵素を説明できる。</p> <p>排泄とは何か説明出来る。発汗の意味について理解する。排尿の仕組みについて理解する。</p> <p>体温の調節の仕組みを理解できる。</p> <p>内分泌とは何か説明できる。内分泌器官とホルモンとその作用について代表的ものを説明できる。</p> <p>受精、妊娠、乳汁分泌の仕組みを理解できる。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 (医歯薬出版) 配布資料
留意事項	5コマの講義が終わるたびに中間試験を行う(計3回)。講義時間外に実施するので日程については別途指示する。

授業計画

回	内 容
1	生命現象とは何か～生理学を学ぶ意義：ホメオスタシス(生体の恒常性)とは何か 細胞の基本的構造とその機能
2	血液と体液：血液と体液の成分とその機能、止血と血液凝固、出血と出血傾向(出血性素因)、血液型と輸血
3	循環：心臓の構造と機能、心臓の自動能
4	循環：心電図、血圧、血管の機能、リンパ循環、ショック
5	呼吸：呼吸とは何か、呼吸器の構成、呼吸運動、換気の仕組み、肺気量と換気量と肺活量、肺でのガス交換、血液中の酸素の運搬、呼吸の調節機構
6	神経：神経系の分布と概要、神経系の基本的機能、神経の興奮性
7	神経：中枢神経系、体性神経、自律神経
8	神経：脳と行動
9	筋肉：筋肉の種類と機能、骨格筋の収縮様式、筋収縮の仕組み、筋電図、心筋、平滑筋の特徴
10	感覚：感覚の基本的性質、特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）
11	消化と吸収：消化と吸収の意味、胃・小腸・大腸の働き
12	排泄：排便、排尿（腎機能）、発汗
13	体温：体熱の生産、体熱の放散、体温の調節、体温の変動
14	内分泌：内分泌器官とホルモン、視床下部-下垂体系、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、腎、生殖器
15	内分泌：甲状腺と上皮小体、副腎、膵臓、腎 生殖：性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌

## 11. 口腔解剖学

2 単位 (必修)

第 1 学年 (30 時間)

担当教員名	森 幸徳
授業科目概要	人体の解剖学のうち、頭頸部の解剖学的知識を習得する。
目的	口腔および口腔周辺の正常な形態、構造を知ることにより、口腔および口腔周辺の機能を知ることが目的とする。
学習目標	頭頸部を形成する骨格と筋系、脈管神経系などの機能、相互の位置関係を理解する。 歯科临床上、直接かかわることの多い口腔内組織の正常な形態、名称を理解する。 上記知識の習得が口腔の生理機能を理解する上での基盤であり、臨床の第一歩であることを理解する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下</li> </ul>
教材	<p>[教科書]</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)</p> <p>配布資料</p>
留意事項	頭頸部の解剖は複雑であり、講義のみでの完全理解は困難であるため、講義中に理解できなかった箇所は、自学にて復習しその理解に努めること。

授業計画

回	内 容
1	頭蓋骨① 頭蓋骨名称、泉門、副鼻腔
2	頭蓋骨② 頭蓋骨部位名称
3	頭蓋骨③ 上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨
4	まとめ①、口腔周囲の筋肉① 頭蓋骨まとめ、舌骨上筋
5	口腔周囲の筋肉② 咀嚼筋
6	口腔周囲の筋肉③、口腔周囲の動脈① 表情筋、舌筋、血液循環の基本、口腔周囲の動脈
7	口腔周囲の動脈② 舌動脈、顔面動脈、顎動脈
8	まとめ②、口腔周囲の静脈・リンパ系① 動脈まとめ、口腔周囲の静脈・リンパ系
9	脳神経① 神経系の基本、脳神経、三叉神経の基本
10	脳神経② 三叉神経（眼神経、上顎神経、下顎神経）
11	脳神経③ 顔面神経、舌咽神経、舌下神経、自律神経
12	まとめ③・④・⑤ 筋肉・脳神経・動脈まとめ
13	口腔組織① 口腔外面、口腔内、歯周組織
14	口腔組織② 舌、口蓋、軟口蓋筋、咽頭
15	口腔組織③ 顎関節、唾液腺

## 12. 歯牙形態学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	森 憲弥
授業科目概要	歯の基本的構造、永久歯および乳歯の形態的特徴、歯の配列と咬合、異常歯などについて学ぶ。 また、実習では、歯のスケッチと歯型彫刻を行って、歯の立体的な形態に対する理解を深める。
目的	歯の基本的形態とそれぞれの特徴について理解し、歯科衛生士として臨床において必要となる歯牙の形態学的知識を修得する。
学習目標	正常な歯の配列と咬合がわかる。 特定の歯の立体的な形態をイメージでき、歯の鑑別ができる。 異常歯の種類を説明できる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】 最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 各種プリント</p> <p>【参考書】 歯の解剖学（金原出版）</p>
留意事項	



授業計画

回	内 容
1	歯の概論 歯式、歯の用語、形態に関する名称、歯の表徴
2	永久歯：中切歯、側切歯、犬歯
3	永久歯：第一小臼歯、第二小臼歯
4	永久歯：上顎第一大臼歯、第二大臼歯
5	永久歯：下顎第一大臼歯、第二大臼歯
6	乳歯：乳切歯、乳犬歯
7	乳歯：第一乳臼歯、第二乳臼歯
8	歯の配列と咬合、異常歯
9	実習：歯のスケッチ：上顎第一大臼歯
10	実習：歯型彫刻（1）上顎第一大臼歯
11	実習：歯型彫刻（2）上顎第一大臼歯
12	実習：歯のスケッチ：下顎第一大臼歯
13	実習：歯型彫刻（3）下顎第一大臼歯
14	実習：歯型彫刻（4）下顎第一大臼歯
15	まとめ

担当教員名	船橋 誠
授業科目概要	口腔は、消化器官、呼吸器官、発語器官、感覚器官として機能し、歯、唾液、咀嚼、味覚などの特異的な機能が存在しています。これら器官として機能をする機構を明らかにする学問です。
目的	口腔、顎、顔面などの諸器官の機能を健全に維持するために、また、これらの諸器官の機能障害を予防・治療する上で基礎となる知識を習得する。
学習目標	<p><b>【一般目標】</b> 口腔を構成している組織や諸器官の役割を理解し、その機能を健全に維持するための機構についての生理学的な知識を習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 口腔生理学とは何か、を理解する。 歯と口腔の感覚：咬合に重要な役割をする歯と歯を支持する歯周組織の機能的構造を説明できる。 歯、歯髄、歯周組織の感覚機能を説明できる。 口腔粘膜の感覚を理解できる。口腔内の感覚点の特徴を説明できる。 味覚：味覚の神経機構の概要を理解できる。 味蕾のはたらきと分布を説明できる。味覚の五基本味、味覚閾値を説明できる。 嗅覚：嗅覚の役割・特性について説明できる。 咬合：下顎位について説明できる。 下顎の運動の特徴について説明できる。 下顎の運動に関与する筋（咀嚼筋）について説明できる。 咀嚼筋の特性を説明できる。 下顎運動と顎関節内の動きを説明できる。 顎反射：顎反射の機序を説明できる。顎運動調節への役割を説明できる。 摂食：摂食行動を説明できる。 咀嚼：咀嚼時の神経性抑制機構を理解できる。 咀嚼時の下顎の動き・食物の動きを説明できる。 咀嚼能率について説明できる。 吸啜：吸啜・吸指癖について説明できる。 嚥下：嚥下と嘔吐にかかわる解剖学的構造を説明できる。 摂食・嚥下の流れについて説明できる。 嘔吐：嘔吐の機序、嘔吐の神経機構を説明できる。 発声：発声機構の概要を理解できる。声の生成機序を理解できる。 言語音の形成と構音障害を説明できる。歯・口腔の病態と発音について説明できる。 唾液：唾液腺の解剖学的概要を説明できる。唾液の分泌機構を理解できる。 唾液の分泌量、性状・成分と機能について説明できる。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<b>【教科書】</b> 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
留意事項	5コマの講義が終わるたびに中間試験を行う（計3回）。講義時間外に実施するので日程については別途指示する。

授業計画

回	内 容
1	口腔生理学とは何か。口腔の役割、口腔の構造と機能の概要。
2	歯と口腔の感覚
3	味覚と嗅覚 1
4	味覚と嗅覚 2
5	味覚と嗅覚 3
6	咬合と咀嚼・吸啜 1：下顎位
7	咬合と咀嚼・吸啜 2：下顎の運動
8	咬合と咀嚼・吸啜 3：顎反射
9	咬合と咀嚼・吸啜 4：咀嚼運動、神経性制御、咀嚼能力
10	咬合と咀嚼・吸啜 5：摂食行動、吸啜反射
11	嚥下と嘔吐 1 嚥下と嘔吐に関わる構造、嚥下の機能、嚥下中枢
12	嚥下と嘔吐 2 嘔吐の機能、嘔吐中枢
13	発声 発声機構の概略、咽頭の機構、音声の生成、言語音の形成、歯・口腔と発音
14	唾液 1：唾液腺の構造、唾液の分泌機構、唾液の性状と成分
15	唾液 2：唾液の働き、唾液と疾患

担当教員名	進藤 正信
授業科目概要	病理学は疾患の病態を解明する学問です。病態とは、疾患の原因、経過、転帰であり、その解明手法は機能的および形態学的検索に基礎をおいていますが、分子生物学的方法（遺伝子など）も取り入れられ、多岐に及んでいます。授業において、病理学総論では、代謝障害、病変の修復、遺伝子異常、循環障害、炎症、腫瘍などと分類された疾患の概要を学びます。口腔病理学では、口腔に特異的な疾患の病態および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概念を学びます。
目的	主な疾患の発生・経過・予後について学び、さらに歯科衛生士として必要な口腔に特異的な疾患および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概要を理解する。さらに医療行為（処置）による病変の治癒経過ならびに副作用について概要を理解する。
学習目標	<p><b>【一般概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの見方と考え方および見方の心理を理解し、ヒトの病変への対応に反映させる。</li> <li>・機能の変化は形態の変化に現れ、形態の変化は機能の変化をもたらすことを理解する。</li> </ul> <p><b>【病理学総論】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞と組織の形態学的変化、機能的変化を理解する。</li> <li>・病気の原因について、内因と外因の代表的なものについては概要を説明できる。</li> <li>・遺伝、染色体、遺伝子、DNA、RNAの概要を説明できる。代表的な遺伝性疾患を理解する。</li> <li>・代謝疾患を理解し、その代表的な疾患について説明できる。</li> <li>・細胞や組織が傷害を受けた時の変化とその治癒過程を説明出来る。</li> <li>・循環障害を理解し、その代表的疾患について説明できる。</li> <li>・炎症を理解し、関与する細胞やその代表的疾患について説明できる。</li> <li>・免疫とは何か、アレルギーや代表的免疫疾患について説明できる。</li> <li>・奇形とは何か、原因を理解する。</li> <li>・腫瘍とは何か、原因、発生過程、悪性腫瘍（がん）と良性腫瘍の相違を理解する。代表的な腫瘍について説明できる。</li> </ul> <p><b>【口腔病理学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔粘膜創、抜歯創の治癒過程を説明できる。 ・口腔粘膜病変の代表的な疾患の概要を説明できる。</li> <li>・口腔領域の嚢胞と腫瘍の分類を理解し、代表的な嚢胞と腫瘍の概要および成り立ちを説明できる。</li> <li>・顎骨の病変、唾液腺の病変を理解し、代表的な病変を説明できる。</li> <li>・口腔領域の奇形の成り立ちを理解できる。 ・口腔組織の加齢変化を説明できる。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学. プリント.
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	総論1章 病理学序論と病因論 ：病理学とは、病態とは、病理学の歴史、医学の中の病理学の位置づけ、死とは。 ：形態と機能の関連、形態・色調の見方・考え方、視覚（色・形）の心理学。 ：病因論（病気の原因、内因、外因）
2	総論2章 遺伝性疾患と奇形 ：遺伝とは、ヒトの染色体とは、：遺伝性疾患、全身の奇形、顎口腔領域の奇形
3	総論3章 循環障害1 ：循環系の概要：循環異常（充血とうっ血、出血と止血、血液凝固と血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫、ショック、DIC）
4	総論3章 循環障害2 ：循環系の異常と疾患（高血圧、動脈硬化、心疾患、脳血管障害）
5	総論4章 代謝障害と退行性病変 ：細胞障害（変性・萎縮、壊死、アポトーシス）
6	総論4章 代謝障害と退行性病変 ：代謝異常（脂質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患）
7	総論5章 増殖と修復 ：細胞の適応（肥大、増生、化生）：再生と修復（異物処理、肉芽組織、創傷治癒）
8	総論6章 炎症と免疫応答異常 ：炎症（炎症の役割、炎症に関与する細胞、炎症の経過と種類）：感染症（細菌感染症、ウイルス感染症）
9	総論6章 炎症と免疫応答異常 ：免疫（免疫応答、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全）：移植と再生医療
10	総論7章 腫瘍1 ：腫瘍の疫学、腫瘍と遺伝子異常、腫瘍の種類と性質。
11	総論7章 腫瘍2 ：日本における悪性腫瘍、腫瘍を誘発する環境因子、腫瘍の治療
12	各論7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 ：炎症性嚢胞と発育性嚢胞、歯原性嚢胞と非歯原性嚢胞：歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍 各論8章 口腔癌 ：口腔癌の疫学、口腔前癌病変、口腔扁平上皮癌
13	各論9章 顎骨の病変。 ：顎骨の炎症性病変、骨粗鬆症、顎骨の腫瘍様病変、顎関節症
14	各論6章 口腔粘膜の病変 ：退行性病変、化学的・物理的障害、原因不明粘膜疾患、感染性疾患、皮膚科的疾患
15	各論10章 唾液腺の病変 ：唾液腺の構造と機能、唾液腺の退行性病変、唾液腺炎、シェーグレン症候群、唾液腺腫瘍

担当教員名	先崎 秀夫
授業科目概要	<p>薬理学とは、生理学から分かれた大きな枝の一つであり、生命科学であると同時に、病気を治すという臨床医学の一分野でもある。したがって、生体がどのように健康な機能を維持しているのかについて正しく理解させ、人体に薬物を投与したときに起こる様々な変化(作用、副作用さらに為害作用)を概説する。</p> <p>また歯科医療において、一般の医療ではあまり使われないような劇薬類が日常的に口腔内に適用されているため、これらの薬物を安全、的確に管理できるように講義する。</p> <p>さらに、高齢者や有病者が歯科診療を受ける機会がますます増加している今日、口腔内に限った薬物の知識ばかりではなく、全身的に投与する薬物の知識、全身管理や安全管理などの知識に関しても講義する。</p>
目的	<p>歯科衛生士として必要な薬理学の知識を習得し、全身管理の知識と、薬剤に関する広い知識を持つ。</p> <p>さらに歯科臨床において使用する薬剤の作用や副作用を知り、正常な口腔のみならず様々な口腔疾患を有する傷病者に対し、診療介助や予防指導および口腔介護を安全に実施できること。</p>
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生体の仕組みや疾病の成り立ちと抵抗性について理解させる</li> <li>② 薬理学の目的や基本的な用語について正しく理解させる</li> <li>③ 様々な薬物についての薬理作用や為害作用などを理解しそれらについての正しい知識を持つ</li> <li>④ 妊婦・小児や高齢者の薬物代謝および多剤服用患者の薬物相互作用についての正しい知識を持つ</li> <li>⑤ 患者の問診を的確に行い正しい医療情報を把握できるようにする</li> <li>⑥ 診療室内の種々の薬物の安全管理を正確に出来るようにする</li> <li>⑦ 薬物投与に関するインシデントや医療事故について理解させる</li> </ol>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p><b>【教科書】</b> 最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版(医歯薬出版)</p> <p><b>【参考書】</b> 現代歯科薬理学第4版(医歯薬出版) ヒヤリハットにさようなら!早わかり薬の知識(メディカ出版) 有病高齢者・歯科治療のガイドライン(クインテッセンス) 一目で分かる薬理学第4版(メディカルサイエンス)</p>
留意事項	<p>薬理学を理解し歯科医療に役立てるためには、解剖学、生理学、生化学、微生物学、病理学などの専門的知識が必要となる。また膨大な知識を頭から詰め込むのではなく、できるかぎり論理的に納得しながら学ぶ努力をさせるため講義内容を記録させ整理させる。</p>

授業計画

回	内 容	
1	薬理学総論 薬理学総論	1：疾病の回復の促進と薬 2：薬物の定義と分類 3：薬物の用量と反応 4：薬物の分布と運命
2	薬理学総論 薬理学総論	5：薬物の作用と副作用、 6：薬物の連用など 7：薬物の副作用 8：医薬品の開発
3	薬理学総論 薬理学総論	9：くすりと法律 10：医薬品の開発
4	薬理学総論 薬理学総論	11：薬の管理と 12：くすりとインシデント
5	薬理学総論 中枢神経系と薬	13：一般的な服薬指導 対象者別の服薬指導、 1：中枢神経とは
6	中枢神経系と薬 末梢神経系の分類と薬	2：中枢神経に作用する薬物
7	末梢神経系と薬 局所麻酔薬	1：末梢神経系に作用する薬物
8	バイタルサインとは 循環・呼吸系と薬	1：循環系に作用する薬物 2：呼吸系に作用する薬物
9	血液と薬 炎症と薬	1：血液凝固 2：血液に関連する薬物 1：炎症とは 2：炎症に作用する薬物
10	痛みとくすり ビタミン・ホルモンと薬	1：ビタミン 2：ホルモン
11	代謝性疾患治療薬 代謝性疾患治療薬	①骨粗鬆症とくすり ②糖尿病と薬
12	感染症と薬 感染症と薬	1：感染症とは 2：抗感染症薬 3：消毒薬
13	免疫と薬 悪性腫瘍と薬	1：免疫とは 2：免疫系に作用する薬物 1：悪性腫瘍とは 2：抗悪性腫瘍薬
14	1：漢方医学とは 歯・歯髄疾患と薬 1：齶蝕の予防に用いる薬物	2：漢方薬とは 2：歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物
15	歯周疾患と薬 1：歯周治療における薬物療法 3：歯周治療に用いる薬剤 顎・口腔粘膜疾患と薬 1：炎症性疾患に用いる薬物 4：口腔乾燥症に用いる薬物	2：急性炎症に用いる薬剤 4：口臭治療に用いる薬剤 2：口腔粘膜疾患に用いる薬物 3：顎関節症に用いる薬物 5：神経疾患に用いる薬物

## 16. 微生物学・口腔微生物学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	先崎 秀夫
授業科目概要	衛生士業務の口腔疾患に関する予防処置や保健指導が含まれて、口腔疾患の多くが常在菌によっておこる感染症であり、業務の遂行にあたっては、それら微生物の性状や発症のメカニズムなどについて熟知する。また、近年、耐性菌による院内感染や、AIDSやB型肝炎などに関しても、診療の場において機械器具の消毒や滅菌に携わる立場上、十分な微生物学的知識が必要である。さらに、口腔疾患の予防という立場から、免疫、アレルギーのメカニズムに関する知識を得る。
目的	微生物が関わる様々な感染症の発症と免疫のメカニズムを学び、口腔感染症の予防について正しく理解し、正常な口腔のみならず様々な口腔疾患を有する傷病者に対する診療介助や予防指導および口腔介護を安全に実施できるように役立てること。
学習目標	感染症の発症メカニズムを微生物の性状や宿主（人・動物）の免疫との関連を学習しながら以下の項目を重点に理解する。 ① 微生物学の発達と歴史 ② 微生物の一般性状とその特徴 ③ 微生物の様々な観察方法 ④ 感染と疾病発症のしくみ ⑤ 免疫と炎症のメカニズム ⑥ 病原微生物各論 ⑦ 化学療法の原理とその臨床 ⑧ 滅菌と消毒の実際と院内感染の防止について ⑨ 口腔常在微生物と口腔疾患 ⑩ デンタルバイオフィルム（歯垢）形成のしくみとその性状および病原性について ⑪ 様々な口腔感染症と内因感染について ⑫ 病巣感染と全身疾患との関わり
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」（医歯薬出版） 【参考書】 口腔微生物学・免疫学 第2版（医歯薬出版） 医科免疫学（改訂第5版）南江堂 新・う蝕の科学（医歯薬出版） ウイルスと感染の仕組み（日本実業出版） 改訂版 口腔の感染症とアレルギー（一世出版）
留意事項	細菌、ウイルスをはじめとする微生物は、体内をはじめ自然界の様々な場所に生息し、人間と共存しているが、時として人間に対し有害な存在ともなる。これらのことから微生物学を通して予防、感染防止にかかわる基礎医学、並びに、内科、その他の隣接医学の知識を広く持たせる。



授業計画

回	内 容
1	微生物の発達と歴史 微生物の一般的性状
2	細菌 細菌の構造と増殖、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫
3	ウイルスの病原性と構造 ウイルスの増殖
4	微生物の培養法と観察方法 バイオフィルム プリオン
5	生体の防御と微生物の特性 感染と発症：1 自然免疫 マクロファージについて
6	感染と発症：2 サイトカインとマクロファージ 感染症の種類と分類
7	免疫：1 ヘルパーT細胞の役割 免疫細胞の分布と分化 抗原提示細胞とは
8	免疫：2 粘膜免疫について 体液性免疫 細胞性免疫
9	免疫：3 体液性免疫・抗体とは 抗原抗体反応とその応用
10	免疫：4 抗原抗体反応を応用した検査 アレルギー I～IV型 自己免疫疾患
11	一般微生物感染症各論：1
12	一般微生物感染症各論：2
13	一般微生物感染症各論：3 歯科診療における感染防止
14	一般微生物感染症各論：4 口腔常在微生物：1
15	口腔常在微生物：2 その他、口腔関連微生物感染症

## 17. 衛生学・公衆衛生学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担当教員名	和田 聖一
授業科目概要	<p>人の健康と疾病予防の概念について学ぶ。</p> <p>人の健康問題とそれに関わる環境について学ぶ。</p> <p>疫学的手法を学び、健康課題を把握するとともに疾病・異常の予防対策について学ぶ。</p> <p>地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや方法について学ぶ。</p>
目的	衛生学・公衆衛生学の考え方を理解し、健康に関わる課題や問題解決のための方法・対策等を学ぶことによって個人・家族及び地域の人々の健康づくりに資することを目的とする。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と家族の健康を守る能力の向上をはかるとともに、医療人として、地域の人々の健康を守る人（職種）であるという意識の向上をはかる。</li> <li>・健康づくりの視点から、健康問題とそれに関わる要因について理解を深め、健康増進や疾病の原因と予防の必要性について理解するとともに、問題解決に必要な判断力と行動力を養う。</li> <li>・地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、法体系を理解し現状の方法を習得する。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い視野を持って、健康にかかわる社会の出来事（ニュース）に関心を持つ。</li> <li>・健康や病気には多くの要因が関わることを知り、その知識と理解を深める。</li> <li>・日常生活習慣や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己管理することができる。</li> <li>・地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を習得する。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> </ul> <p>平常点（小テスト・提出物）40点 筆記試験 60点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版」</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」</p> <p>（医歯薬出版）</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のテーマは広範囲にわたっていて、しかも内容が豊富。授業では、よく聴き、心で感じ、理解することに努めること。覚えることだけが勉強ではないことに留意する。</li> <li>・毎日の勉強と試験のための勉強とは違うもの。試験のための勉強は試験の前にするもの。</li> <li>・授業に集中できるよう、毎日の食事、睡眠などに留意し、良い生活習慣を身に付ける。</li> <li>・勉強は自分がするもの、今するもの。復習は重要。</li> <li>・テストも感想文も漢字で書くべき語句は漢字で書く。間違えることができるのは今だけ。</li> </ul>

授業計画

回	内 容
1	総論・人口 衛生とは、歯科衛生士とは、健康の概念、予防医学の概念 人口構造、少子化と高齢化、出生率、平均余命と平均寿命
2	環境と健康・1 環境と健康の概念、生活環境（空気、温熱環境、水など）
3	環境と健康・2 上水道と下水処理、廃棄物処理、環境保全と法体系
4	疫学 疫学とは、疾病異常（健康障害）の発生要因、5W-1H 疫学の方法論、統計資料の見方（但し、パソコン学習の一部として集計・分析・見える化を体験する）
5	感染症・1 感染と発病、感染の三大要因、感染予防とその対策
6	感染症・2 おもな感染症の動向とその予防及び法体系
7	食品と健康・1 国民栄養の現状と問題点、健康づくりのための各種指針、健康日本21
8	食品と健康・2 機能的食品、食中毒、食品添加物
9	地域保健 地域保健とは、地域保健の組織、地域の保健計画。住民の生活、地域特性、地域保健活動の進め方、健康日本21
10	母子保健 母子保健の意義、母子保健の現状と法体系、母性保健管理 小児保健管理、母子保健対策、母子歯科保健との関連
11	学校保健 学校保健の意義および概要、学校保健の活動とその組織と法体系
12	成人保健 成人保健の意義と活動の現状、成人保健対策
13	産業保健 産業保健の概念と法体系、職業性疾病、産業保健管理、産業保健活動
14	老人（高齢者）保健、精神保健 老人（高齢者）保健の意義、老人（高齢者）保健のための組織と法体系 心の健康と障害、ライフサイクルからみた精神保健と法体系
15	グローバルヘルス（国際保健） グローバルヘルスにおける日本の位置づけと協力態勢。復習とまとめ

## 18. 口腔衛生学・歯科衛生統計

4単位（必修）

第1学年（60時間）

担当教員名	北川 純一
授業科目概要	口腔衛生学は、歯科医学においては基礎に位置づけられる科目であるが、様々な予防処置や保健指導などの臨床的な内容、公衆歯科衛生や地域歯科保健活動などの社会歯科学的内容も多い。歯や口腔の正常な状態、機能に加えて、う蝕や歯周病、その他の口腔疾患の原因と予防法を学ぶことで、国民の口腔の健康増進を図ることを目的とする。
目的	歯科予防処置および歯科保健指導の基礎となる口腔衛生学を学ぶことにより、実践に役立てる。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>口腔衛生学の内容を確実に理解し、臨床現場のみならず広く社会で実践することは歯科衛生士の基本的任務である。そのため、口腔衛生学を講義や実習から興味と意欲をもって十分学び、う蝕や歯周病等の予防的処置や保健指導、地域の歯科保健活動に参画できるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①口腔衛生学の位置づけ、意義を理解する</li> <li>②予防や保健、健康増進の概念・意義を理解する</li> <li>③第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する</li> <li>④歯や口腔の正常像、機能を理解する</li> <li>⑤口腔の不潔と口腔清掃について理解する</li> <li>⑥う蝕や歯周病の原因と予防法について学ぶ</li> <li>⑦不正咬合や口臭、その他の口腔疾患の原因と予防法について学ぶ</li> <li>⑧公衆歯科衛生の概念および地域歯科保健活動について理解する</li> <li>⑨歯科疾患を表現する各種の指数と疫学について学ぶ</li> <li>⑩得られたデータを統計処理する方法について学ぶ</li> <li>⑪地域の歯科保健状況を分析する方法について学ぶ</li> <li>⑫地域に必要な歯科保健対策を立案する方法について学ぶ</li> <li>⑬地域の歯科保健活動を実施する方法について学ぶ</li> </ol>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」  最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」</p> <p>【参考図書】</p> <p>口腔保健学第2版（医歯薬出版） 新予防歯科学第3版（医歯薬出版）  スタンダード口腔保健学（学建書院）</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	口腔衛生学の意義 ① 口腔衛生学とは ②健康障害への対応の5つのステップ ③キュアとケア、そして公衆衛生
2	歯・口の健康（1） ①歯・口の正常像
3	歯・口の健康（2） ②歯・口の機能 ③全身と歯・口の発育
4	歯・口の健康（3） ③全身と歯・口の発育 ④全身疾患との関連
5	口腔の不潔（1） ①口の環境 ②歯の付着物・沈着物
6	口腔の不潔（2） ②歯の付着物・沈着物 ③不潔状態の表現、把握法
7	口腔清掃（1） ①口腔清掃の意義 ②口腔清掃法
8	口腔清掃（2） ③人工的清掃法の分類と用具 ④歯磨剤
9	口腔清掃（3） ⑤ブラッシングの術式 ⑥ブラッシング指導の概要
10	う蝕の予防（1） ①う蝕という病気
11	う蝕の予防（2） ②う蝕発病のしくみ
12	う蝕の予防（3） ③う蝕の発生要因
13	う蝕の予防（4） ④う蝕活動性
14	う蝕の予防（5） ⑤う蝕の予防法
15	う蝕の予防（6） ⑥フッ化物の応用
16	歯周疾患の予防（1） ①歯周疾患の疫学 ②歯周疾患の症状と分類 ③発病機構
17	歯周疾患の予防（2） ④予防手段 ⑤歯周疾患の予防処置
18	不正咬合の予防 ①不正咬合の成立 その他の疾患・異常の予防（1） ①顎関節症
19	その他の疾患・異常の予防（2） ②口臭 ③舌痛症 ④口腔癌 ⑤智歯周囲炎
20	公衆歯科衛生 ①公衆衛生とは ②公衆歯科衛生とは ③公衆歯科衛生の基礎となるもの ④公衆歯科衛生活動
21	地域歯科保健活動（1） ①主な活動分野 ②政策決定のための条件 ③集団検診と事後措置
22	地域歯科保健活動（2） ④保健教育 ⑤現場活動の場面
23	地域歯科保健活動（3） ⑥母子歯科保健
24	地域歯科保健活動（4） ⑦学校歯科保健
25	地域歯科保健活動（5） ⑧産業歯科保健
26	地域歯科保健活動（6） ⑨成人歯科保健活動 ⑩老人歯科保健
27	歯科疾患の疫学（1） ①疫学の基礎
28	歯科疾患の疫学（2） ②歯科疾患の疫学
29	歯科疾患の疫学（3） ②歯科疾患の疫学
30	歯科衛生統計 ①標本調査 ②実際の統計処置

## 19. 歯科衛生士概論

1 単位 (必修)

第1学年 (30時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	保健・医療福祉の概念および歯科疾患の概要、また歯科医療を担っていくうえで必要な倫理的観念を感受し、歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割と業務上の義務と責任について十分理解して、歯科衛生士を目指す者としての学習態度、心構えなどを養えるようにする。
目的	歯科医療の特異性、歯科衛生士の果たす役割と、業務上の義務と責任について理解を深め、社会のニーズを敏感にキャッチし、対応する力を身につける。歯科衛生士として患者、社会から信頼される人間性を身に着ける。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>歯科衛生を実践して人々の健康づくりを支援するものとなるために、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を修得する。倫理問題に配慮して歯科医療に携わるために、生命と医療に関わる倫理の重要性を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 歯科衛生学を概説できる。</li> <li>② 歯科衛生業務の歴史について説明できる。</li> <li>③ 科学的思考の必要性について説明できる。</li> <li>④ 歯科衛生士に関する法令（歯科衛生士法・施行令・施行規則）が言える。</li> <li>⑤ 医療安全対策の必要性と方策を概説できる。</li> <li>⑥ 世界の歯科衛生士の現状（存在する国、制度、数等）が説明できる。</li> <li>⑦ デンタルチームと他の医療職の関りについて説明できる。</li> <li>⑧ 歯科衛生士の組織としての活動を概説できる。</li> <li>⑨ 海外の歯科衛生士の現状について概説できる。</li> <li>⑩ 医療従事者として必要な、倫理・ルール（規範・規律）・法などの概念が理解できる</li> <li>⑪ インフォームド・コンセントの重要性について理解できる。</li> <li>⑫ 歯科医療面接技法を実践できる</li> </ol>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論（医歯薬出版）</p> <p>プリント</p>
留意事項	学問知識のみでなく、希望をもって歯科衛生士を目指して学習する意欲を喚起できるようにする。

授業計画

回	内 容
1	歯科衛生学とは① 歯科衛生学 歯科衛生と健康
2	歯科衛生学とは② 歯科衛生活動の対象 歯科衛生活動の領域
3	歯科衛生の歴史
4	歯科衛生活動のための理論 予防の概念 歯科衛生の考え方
5	歯科衛生士法と歯科衛生業務① 歯科衛生士と歯科衛生士法 歯科衛生士の役割
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務② 関連法規 安全管理
7	歯科衛生士の活動と組織
8	海外における歯科衛生士 海外の歯科衛生士のあゆみ 海外における歯科衛生士の現状
9	なぜ医療倫理を学ぶのか グループディスカッション
10	医療倫理に関する規範とバイオエシックス グループディスカッション
11	インフォームド・コンセント グループディスカッション
12	研究と医療倫理 グループディスカッション
13	歯科医療面接技法・1 実習
14	歯科医療面接技法・2 実習
15	まとめ

## 20. 歯科臨床概論

1 単位 (必修)

第 1 学年 (30 時間)

担当教員名	守本 勝幸
授業科目概要	歯科基礎医学を概観し歯科医療を全体的に見る。歯科医療の特異性・医療従事者と患者さんとの関係・歯科診療のながれ・歯科疾患の概要・各診療科における治療の概要を講義する。
目的	歯科医学に携わる者として、その仕事の間である歯科臨床についての概要を知ることが目的とする。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>現実の歯科医療がどのように行われ、どのような病気が存在し、どのように治療が行われていくのかを概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 医療と歯科医療に共通する倫理や歯科医療独特の問題を理解する。</p> <p>② 患者との対応、小児から高齢者、有病歯科患者に至るまでそれぞれの対応を考える。</p> <p>③ 歯科疾患の全容を概観する。詳細は各科の講義で行う。</p> <p>④ 歯科診療の概要と歯科診療のながれを理解する。</p> <p>⑤ 各診療科（保存・歯周病・補綴・小児・矯正・口腔外科）の治療の概要を理解する。それぞれの治療に於ける歯科衛生士の役割を理解する。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>歯科衛生士のための歯科臨床概論（医歯薬出版）、プリント</p>
留意事項	講義内容が分割される場合があるため欠席をできるだけ避けるように。



授業計画

回	内 容
1	歯科医療① 歯科臨床とは何か、医の倫理とインフォームドコンセント
2	歯科医療② 歯科医療の特異性
3	歯科医療③ 歯科診療従事者の種類と役割
4	歯科患者 患者の心理、患者への対応特殊な歯科患者、標榜、加齢と歯科診療、小児歯科患者、高齢歯科患者
5	歯科診療の流れの概要① 受け入れ準備、受付、予診、診察、検査、診断、治療、メンテナンス
6	歯科診療の流れの概要② 応急処置、救急処置、バイタルサイン、AED、診査・検査・前処置
7	小児歯科治療の概要 小児期の分類、咬合誘導
8	矯正歯科治療の概要 不正咬合の種類、診断、治療
9	口腔外科治療の概要 口腔領域の疾患（炎症について）、診査（予診）
10	歯科保存治療の概要① 保存修復～インレー修復、CR
11	歯科保存治療の概要② 歯内療法～抜髄、根管治療の流れ
12	歯周治療の概要① 歯周疾患について、原因、症状、診査、治療
13	歯周治療の概要② 歯周治療の流れ、歯科衛生士の役割
14	歯科補綴治療の概要 補綴装置の種類、クラウン、ブリッジ、義歯治療の流れ
15	障害者歯科・高齢者歯科、 訪問診療、口腔ケア、誤嚥性肺炎、周術期

## 21. 歯科保存学(1)

1 単位 (必修)

第1学年 (15時間)

担当教員名	池田 欣希
授業科目概要	<p>歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」および「歯科漂白」から構成される。</p> <p>「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対する成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。</p> <p>「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法などの各種治療法と臨床術式について説明する。</p> <p>「歯科漂白」では、生活歯および失活歯の漂白法について臨床術式と作用メカニズムを解説する。</p>
目的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療の対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。さらに、歯の漂白法の概要と臨床術式を習得する。
学習目標	<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。</li> <li>・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。</li> <li>・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。</li> <li>・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。</li> <li>・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。</li> <li>・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。</li> <li>・ 歯のホワイトニングの手法を列挙できる。</li> <li>・ 生活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 失活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> </ul>
成績評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)
留意事項	<p>あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。</p> <p>事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。</p>

授業計画

回	内 容
1	歯科保存学総論 ・ 歯科保存学について      ・ 歯の保存の意義      ・ 歯科保存学の対象となる疾患
2	歯科保存修復学 ・ 保存修復の方法について      ・ 歯科衛生士と保存修復      ・ 衛生指導の重要性
3	歯科保存修復学 ・ 問診、現症のとり方、      ・ 診査法、検査法
4	歯科保存修復学 ・ 歯の硬組織疾患（エナメル質う蝕、象牙質齶蝕）      ・ う蝕の発生
5	歯科保存修復学 ・ 窩洞      ・ 歯面の略号と窩洞の名称      ・ 窩洞の具備すべき条件      ・ 欠損修復とその種類
6	歯科保存修復学 ・ 保存修復法（前準備、仮封剤、全体の流れ）      ・ 回転切削器械・切削器具
7	歯科保存修復学 ・ コンポジットレジン修復の概要・特徴・適応症      ・ コンポジットレジンの種類 ・ セメント修復      ・ アマルガム修復
8	歯科保存修復学 ・ 鋳造修復の特徴      ・ 印象採得      ・ 技工室内作業 ・ 歯科審美について      ・ ラミネートベニア修復      ・ その他の修復法

## 22. 歯周治療学(1)

1単位(必修)

第1学年 (15時間)

担当教員名	森本 達也
授業科目概要	歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病態と原因、その予防と治療法について学ぶ。 歯周疾患における診査、診断、基本治療、歯周外科処置、再生治療、メンテナンス等について学習する。
目的	歯周病の罹患率が高い現在、歯周治療は歯科衛生士としての実力がもっとも問われる分野である。予防や治療の方法を学び、その目的や理論を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	歯周治療に際し、基礎知識を理解した上で、それぞれの病態に応じた治療法を理解できるようにする。 併せて歯科衛生士の役割、予防とメンテナンスの重要性を認識する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	教科書：最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版(医歯薬出版)
留意事項	関連教科である組織発生学、口腔解剖学、微生物学もしっかり学ぶこと

授業計画

回	内 容
1	歯周治療の基礎知識 歯周病の現状 歯周治療における歯科衛生士の役割 歯周治療の基礎知識 歯周組織の構造・機能
2	歯周治療の基礎知識 歯周疾患の病態 歯周疾患の原因と発症のメカニズム 1 バイオフィルム
3	歯周治療の基礎知識 歯周疾患の原因と発症のメカニズム 2 修飾因子 局所因子 生活習慣と全身性因子 機能因子とブラキシズム
4	歯周治療の実際 歯周治療の進め方 診査、診断、治療計画の立案 インフォームドコンセント 歯周治療の実際 歯周疾患の診査と診断 問診、一般診査、X線診査
5	歯周治療の実際 歯周組織検査 咬合診査 模型、口腔内写真 ブラキシズムについて
6	歯周治療の実際 基本治療 1 モチベーションの方法と実際 生活習慣指導
7	歯周治療の実際 基本治療 2 ブラークコントロール ブラッシング
8	歯周治療の実際 基本治療 3 スケーリング スケーラー、キュレットの基本操作 歯面研磨

## 23. 歯科補綴学(1)

1単位(必修)

第1学年 (15時間)

担当教員名	櫻井 泰輔
授業科目概要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物(補綴装置)を用いて口腔の諸機能および、外観を回復する過程を理解する。
学習目標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」:90点以上, 「優」:80~89点, 「良」:70~79点, 「可」:60~69点, 「不可」:59点以下
教材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」(医歯薬出版)
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	基礎編① 1章 歯科補綴の概要 2章 歯科補綴治療の基礎知識
2	基礎編② 2章IV 咬合様式と顎運動
3	基礎編③ 3章 歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療
4	クラウン編① 種類
5	クラウン編② 築造、形成, T e C
6	クラウン編③ i m p、B T、技工, s e t
7	B r 編① 構造、ポンティック
8	B r 編① i m p、B T、s e t

## 24. 口腔外科学(1)

1単位(必修)

第1学年 (15時間)

担当教員名	北川 善政
授業科目概要	わが国は高齢社会に突入し、歯科医療受診者においても糖尿病、高血圧、脳・心臓血管疾患など様々な全身疾患を有している事が多い。このような全身疾患の概要、歯科的注意事項を学ぶ。さらに、口腔顎顔面領域には、炎症、外傷、形態異常、腫瘍、嚢胞など様々な疾患が発生し、その中には、口腔に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身の部分症状として現れる疾患がある。このように口腔外科は、医科と歯科の境界領域を担う科目である。それぞれの原因、病態と症状・所見との関係、診断法、治療法について理解し、歯科衛生士としての診療における役割と実際面について習得する。
目的	代表的な全身疾患を理解し、歯科的な注意事項、歯科衛生士の役割を習得する。 口腔外科領域の主な疾患と術式を理解し、口腔外科手術の準備、介助、術後のケアについて理解する。
学習目標	1) 代表的な全身疾患の病態を理解したうえで歯科衛生士の役割を実践できる。 2) 口腔外科疾患の処置・手術に当たっては、病気の全体像(発病因と予後)を把握した上で介助を行うことができる。 3) 種々の口腔疾患に対する口腔外科手術、全身麻酔、局所麻酔における術式を理解し、口腔疾患を取り扱う上での歯科衛生士の役割を認識する。 4) 簡単な検査結果を正しく理解し、処置・手術時の不快症状(バイタルサイン)に早急に対応できる認識能力をつける。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」:90点以上、「優」:80~89点、「良」:70~79点、「可」:60~69点、「不可」:59点以下
教材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 口腔外科学・歯科麻酔(医歯薬出版)
留意事項	口腔外科は理解する内容が多いため予習、復習に努める。



授業計画

回	内 容
1	口腔外科と歯科衛生士 口腔外科とは 口腔外科における歯科衛生士の役割
2	口腔疾患と内科系疾患との関係 口腔疾患の全身への影響 内科系疾患を持つ患者の歯科治療 内科系疾患を持つ患者に対する投薬時の注意
3	口腔領域の先天異常・変形 歯の異常 口腔軟組織の先天異常 唇裂・口蓋裂 顎の先天異常と変形
4	口腔領域の損傷 歯の外傷 顎骨骨折 軟組織の損傷 顎関節疾患 顎関節症 顎関節の外傷 その他
5	口腔粘膜疾患 水泡形成を主徴とする疾患 紅斑およびびらんを主徴とする疾患 潰瘍を主徴とする疾患 白斑を主徴とする疾患
6	口腔領域の炎症 歯周組織の炎症 顎骨の炎症 顎骨周囲組織の炎症
7	口腔領域の嚢胞 顎骨内にできる嚢胞 軟組織に生じる嚢胞
8	口腔領域の腫瘍 薬剤関連顎骨壊死 MRONJ

## 25. 小児歯科学(1)

1単位(必修)

第1学年 (15時間)

担当教員名	中村 光一
授業科目概要	小児の心身の発育・生理的特徴、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科的問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する
目的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 小児の心身の発育・生理的特徴を説明できる</li> <li>② 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる</li> <li>③ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる</li> <li>④ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる</li> <li>⑤ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる</li> <li>⑥ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる</li> <li>⑦ 咬合誘導装置の種類と意義を説明できる</li> <li>⑧ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 小児歯科(医歯薬出版)</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	小児歯科概論 心身の発育 小児の生理的特徴
2	顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常 (乳歯・幼若永久歯の特徴)
3	歯列・咬合の発育と異常
4	小児の歯科疾患
5	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法(1) (患児、保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係)
6	小児歯科における患者との対応法(2) (歯科治療時の対応法)
7	小児歯科における診療体系(1) (小児歯科診療の特徴・原則・検査、診断・母親教室)
8	小児歯科における診療体系(2) (麻酔法・歯冠修復・幼若永久歯の歯冠修復)

## 26. 矯正歯科学(1)

1単位(必修)

第1学年 (15時間)

担当教員名	工藤 悠介
授業科目概要	正常咬合と咬合異常 診査、診断 治療方法、治療計画
目的	咬合、診断法、治療の術式および、長期にわたる治療やフォローについて理解する。
学習目標	① 正常咬合と咬合異常を理解し説明できる ② 咬合異常の治療の種類を理解し、内容を説明できる ③ 使用器材の名称および使用方法を説明できる ④ 矯正装置の名称および使用方法を説明できる ⑤ 矯正装置のメカニクスを説明できる ⑥ 矯正治療における診察補助の前準備、術式、使用器材、メンテナンス、注意点を説明できる
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正(医歯薬出版)
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	歯科矯正学概論 歯科矯正学とは 成長・発育 頭部・顎・顔面の成長発育 顎の成長発育 歯・歯列の成長発育
2	咬合 咬合とは 正常咬合 不正咬合
3	不正咬合の分類 不正咬合の頻度 不正咬合の原因 不正咬合の予防
4	口腔習癖 口腔習癖の種類と発生頻度 口腔習癖の不正咬合への影響 指しゃぶりの原因 舌突出癖 咀嚼、発音への影響、嚥下の発達
5	矯正治療の生物力学・矯正力と歯の移動 矯正力 歯の移動と組織反応 歯の移動様式
6	矯正診断に関する知識
7	矯正治療に使用する器材とその取り扱い方・1
8	矯正治療に使用する器材とその取り扱い方・2

## 27. 障害者歯科 (1)

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	今渡 隆成
授 業 科 目 概 要	障害者の特性を把握し、障害の種類と歯科の特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその知識・技術について学習をする。
目 的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び、歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第 2 版 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	1章 障害の概念 歯科医療におけるスペシャルニーズ、障害の分類、ノーマライゼーションとバリアフリー、スペシャルニーズの発生と受容
2	2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 精神遅滞、発達障害
3	ADHD、LD、脳性麻痺
4	筋ジストロフィー、脊髄損傷
5	関節リウマチ、脳血管障害
6	ALS、視覚障害、聴覚障害
7	統合失調症、うつ病、てんかん
8	認知症、虐待

## 28. 高齢者歯科（1）

1 単位（必修）

第1学年（15時間）

担当教員名	小野 智史
授業科目概要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 「高齢者歯科」第2版（医歯薬出版）
留意事項	



授業計画

回	内 容
1	I 編 高齢者をとりまく社会と環境 1 章 高齢者をとりまく社会と環境 2 章 高齢者にかかわる法制度 3 章 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴
2	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（全身的变化）
3	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（全身的变化）
4	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（口腔・咽頭領域の加齢変化）
5	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 1 章 加齢に伴う身体的機能の変化（口腔・咽頭領域の加齢変化）
6	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 2 章 高齢者の精神・心理的变化 3 章 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患
7	II 編 加齢による身体的、精神的変化と疾患 2 章 高齢者の精神・心理的变化 3 章 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患
8	III 編 高齢者の状態と把握 1 章 高齢者の生活機能の評価 2 章 高齢者歯科と臨床検査

## 29. 歯科予防処置論 I

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 名塚 有香 安藤 貴美 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科の二大疾患である「う蝕」や「歯周病」についての理解を深め、口腔保健を向上させるために必要な予防処置の基本知識、技能、術式、および態度について総合的に学習する。
目的	歯科疾患を予防し、人々の歯・口腔内の健康を維持・増進させるために、歯科予防処置に必要な知識・技術、および態度を習得する。
学習目標	①正常な歯・歯周組織と口腔の機能について概説できる。 ②歯・口腔の健康状態を把握するための項目が列挙できる。 ③プラークの形成過程と成分について説明できる。 ④歯石の形成過程と成分について説明できる。
成績評価方法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教材	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版) プリント
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	序説 歯科予防処置とは（予防的歯石除去法・う蝕予防処置法） 基本的な歯科用語、歯牙の本数（永久歯・乳歯）
2	歯牙の名称（永久歯・乳歯）
3	歯番について（ジグモンディー方式）
4	歯番について（FDI方式）
5	歯周組織について 歯牙、歯肉の正常像 歯肉炎、歯周炎について
6	歯垢、歯石について う蝕の進行について
7	鎌型スクレーラーについて 操作の4原則、適正角度について、把持・固定について 基本操作について
8	予防的歯石除去計画の立て方 歯石除去の手順まとめ

30. 予防的歯石除去法実習 I

2 単位 (必修)

第 1 学年 (60 時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授 業 科 目 概 要	歯周病予防・治療における歯石除去技術を成熟するため、歯周病の基礎知識、必要器材・機械とその取り扱い、歯石除去技術の基本を習得させる。
目 的	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。
学 習 目 標	① 歯科予防処置の定義と内容を説明できる。 ② インストルメントの取り扱い、管理ができる。 ③ 手用スケーラーの種類と特徴が説明できる。 ④ 鎌型スケーラーの基本操作ができる。 ⑤ マネキン上での鎌型スケーラーによる部位別歯石除去ができる。 ⑥ 歯面研磨用器具・器材の使用法が説明できる ⑦ マネキン上での歯面研磨ができる。
成 績 評 価 方 法	1 筆記試験 2 実技試験 3 実習への取り組み、学習態度 以上により、総合的に評価し可否判定する。
教 材	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版) プリント配布
留 意 事 項	注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1	歯科予防処置の概要 歯科疾患予防の体系・歯科衛生士が行う歯科予防処置 実習器具の使用方法について
2	歯石除去 歯石除去用の器械器具 スケーラーの把持・操作・固定
3～5	訓練用石膏棒で基本操作実習 前腕回転運動
6	マネキン操作について ホームポジション、マキシラアングル、ヘッドローテーション

回	内 容
7、8	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部 唇側左半分）
9	訓練用石膏棒で基本操作実習 手指屈伸運動
10、11	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部 唇側）
12、13	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部 口蓋側）
14、15	歯石除去 マネキン実習（下顎前歯部 唇側）
16、17	歯石除去 マネキン実習（下顎前歯部 舌側）
18、19	歯石除去 マネキン実習（右下臼歯部）
20、21	歯石除去 マネキン実習（右上臼歯部）
22、23	歯石除去 マネキン実習（左下臼歯部）
24、25	歯石除去 マネキン実習（左上臼歯部）
26～28	歯面研磨 研磨用具、研磨剤について マネキン実習
29	疑似歯石除去 体験
30	総括・復習

3 1. う蝕予防処置法

2 単位 (必修)

第 1 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授 業 科 目 概 要	う蝕予防の基礎知識を学び、マネキン上や相互実習でフッ化物応用法、鍍銀法、小窩裂溝填塞法、う蝕活動試験法の技術を習熟する。
目 的	う蝕予防に必要な知識を学び、各種予防技術を習熟する。
学 習 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① う蝕の原因・発症・進行・特異性が説明できる。</li> <li>② フッ化物歯面塗布に用いる薬剤を説明できる。</li> <li>③ フッ化物歯面塗布法を理解し、実技・メンテナンスができる。</li> <li>④ フッ化物ジアンミン銀塗布に用いる薬剤を説明できる。</li> <li>⑤ フッ化ジアンミン銀塗布法を理解し、実技・メンテナンスができる。</li> <li>⑥ 小窩裂溝填塞法の対象歯を説明できる。</li> <li>⑦ 小窩裂溝填塞法を理解し、実技・メンテナンスができる。</li> <li>⑧ フッ素洗口を理解し、方法を指導できる。</li> <li>⑨ 各種う蝕活動性試験ができる。</li> <li>⑩ う蝕活動性試験の結果を有効に活用できる。</li> <li>⑪ 人・集団のう蝕予防法を説明できる。</li> <li>⑫ 症例検討ができる。</li> </ol>
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，提出物，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	<p>最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 第 3 版 プリント</p>
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	フッ化物の基礎知識①
2	フッ化物の基礎知識②
3	フッ化物の局所応用
4	フッ化物 実習 フッ化物洗口法、トレー法、フッ化物テイスティング（フルオールゼリー、フローデン A、フローデンフォーム）
5、6	相互実習 フッ化物塗布
7	フッ化ジアンミン銀 フッ化ジアンミン銀の作用機序、術式、メンテナンス
8	フッ化ジアンミン銀 実習 フッ化ジアンミン銀塗布実習（手指、抜去歯）、衣類付着時のシミ抜き実習
9	う蝕活動性試験 う蝕活動性試験の目的、種類
10	う蝕活動性試験 実習 唾液流出量測定、Dentocult-SM、Dentocult-LB、RD テスト、CAT21test、CAT21Buf
11	う蝕活動性試験 実習 判定結果 唾液流出量測定、Dentocult-SM、Dentocult-LB、RD テスト、CAT21test、CAT21Buf
12	小窩裂溝填塞剤の知識 小窩裂溝填塞法（器具、薬剤の取り扱い方、術式）
13	小窩裂溝填塞法 実習 顎模型上実習
14、15	相互実習 小窩裂溝填塞

## 3 2. 歯科保健指導論 I

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士業務の一つである歯科保健指導は、人々の日常生活の中の習慣や行動により、自らの健康の維持や増進することを助け、歯科保健向上に役立つように指導や教育を行うことである。歯科保健指導の概要を知ることにより対象となる人々の生活・習慣を学び、より健康支援の方法を説明できることを目的とする。
目 的	個人・小集団を対象とした歯科保健指導ができるようになるための基礎知識・技術を習得する。
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ライフステージの保健行動と指導目標を説明できる。</li> <li>* コミュニケーションにカウンセリング技法を応用できる。</li> <li>* 対象者の情報が把握できる。</li> <li>* 保健指導の手順を説明できる。</li> <li>* 業務記録のとり方を説明できる。</li> <li>* 心身の状態別に保健指導計画をたてられる。</li> <li>* カウンセリング技法を理解し、パラカウンセラーとして活用できる。</li> <li>* 業務記録の目的を説明できる。</li> <li>* 対象集団別の指導計画をたてられる。</li> </ul>
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，提出物，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版)、プリント</p>
留 意 事 項	<p>対象となる人を理解し、パラカウンセラーの役割をはたせるようにする。</p> <p>注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。</p>



授業計画

回	内 容
1	歯科保健指導の概要 健康の概念、保健行動、生活行動 行動科学、行動変容とそのステップ
2	食生活指導（栄養指導）の基礎 1・2・3 食生活および食習慣の把握 食品とう蝕誘発性 う蝕予防のための食品摂取方法 キシリトールについて
3	ライフステージ (1) 母子保健歯科保健教育 妊産婦期・新生児期
4	ライフステージ 地域歯科保健 (1) 母子保健歯科保健教育 乳幼児期・幼児期
5	ライフステージ 地域歯科保健 (2) 学校歯科保健教育
6	ライフステージ 地域歯科保健 (3) 老人歯科保健教育
7	ライフステージ 地域歯科保健 (4) 障害歯科保健教育
8	歯科衛生過程 歯科衛生過程の概念

3.3. 歯科保健指導実習 I

2 単位 (必修)

第 1 学年 (60 時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯口清掃法や食事指導法を指導するだけでなく、いろいろな年齢の多様な歯科保健状態をもって、それぞれまったく異なった環境のもとで生活している個人に最も相応しい歯科保健行動をとれるように専門的な立場から援助できるよう学ぶ。
目的	歯科保健指導ができるようになるための基礎知識・技術を習得する。
学習目標	① 口腔清掃の意義・目的を説明できる。 ② 口腔清掃法、人工的清掃法の種類を言える。 ③ 口腔清掃の現状を把握できる。 ④ 口腔清掃用器材の種類と用途を説明できる。 ⑤ 各種ブラッシング法を実演できる。 ⑥ デンタルフロス、歯間ブラシの使用法を実演できる。 ⑦ ジェット水流洗口器、特殊歯ブラシ、電子歯ブラシの理論を言える。 ⑧ ジェット水流洗口器、特殊歯ブラシ、電子歯ブラシの使用法を実演できる。 ⑨ 歯面の付着物および沈着物の種類を説明できる。 ⑩ 口腔清掃状態の測定ができ、指数化できる。 ⑪ 自身の口腔清掃の方法を、適切に行うことができる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、提出物、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版) プリント
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内容
1	歯科保健指導とは 保健指導の基礎
2	歯科保健指導の基礎 口腔保健正常像の理解、歯・口腔の汚れの状態の観察、初期病変の理解
3～5	相互実習 口腔内観察実習 (舌、頬粘膜、歯面、歯肉)
6、7	口腔清掃法 各種ブラッシング法、為害作用
8	口腔清掃法 実習

回	内 容
9、10	補助的清掃用具 デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ
11	補助的清掃用具 実習
12	歯磨剤・洗口剤 歯磨剤・洗口剤の種類、使用方法
13	歯磨剤・洗口剤 実習
14	歯垢染色剤 歯垢染色剤、染色方法
15	歯垢染色 実習
16、17	プラーク、歯石の歯数 PCR、OHI、OHI-S、PII、PHP
18	電動歯ブラシ 電動歯ブラシ、音波歯ブラシ、超音波歯ブラシ
19	電動歯ブラシ 実習
20～22	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
23～25	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
26～28	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
29、30	まとめ

## 34. 歯科診療補助論 I

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担当教員名	飯田 彰 関口 陽子
授業科目概要	歯科診療補助の業務と歯科診療の補助を理解し、適切な患者対応ができるようになること。 また、歯科診療では種々の病原微生物に感染する可能性があり、歯科医療従事者は、日常臨床における院内感染防止対策に注意をはらわねばならない。そこで、微生物の特徴、感染症についての知識をもち、滅菌・消毒の重要性を理解して院内感染防止法の実際を習得させる。
目的	歯科診療補助行為に関する業務概要について説明ができる。 患者対応の基本を理解する。 感染予防のための滅菌・消毒の重要性を理解し、臨床の場で実践できる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 微生物の種類・構造、細菌の発育条件を説明できる。</li> <li>* 滅菌・消毒の定義、体系を説明できる。</li> <li>* リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念を説明できる。</li> <li>* 歯科医療における感染防止の重要性を説明できる。</li> <li>* 診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での感染予防の対応ができる。</li> <li>* 物理的消毒法の作用機序と効果・特徴・注意事項を説明できる。</li> <li>* 煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、簡易乾熱滅菌、EOG 滅菌、超音波消毒、紫外線消毒ができる。</li> <li>* アルコール高圧滅菌、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌の理論を説明できる。</li> <li>* フェノール係数・消毒薬の効果影響因子を説明できる。</li> <li>* 薬品濃度の意味を説明できる。</li> <li>* 消毒薬の作用機序と効果・特徴・使用方法、注意事項を説明できる。</li> <li>* 逆性石鹼液、クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム、イルガサン DP300 の薬液を調整することができる。</li> <li>* 器材別滅菌・消毒を実際に行うことができる。</li> <li>* 感染症患者の器具・材料の取り扱いができる。</li> <li>* 医療廃棄物・バイオハザードマークについて説明できる。</li> <li>* 主な感染症 (B 型肝炎・C 型肝炎、AIDS、梅毒等) の滅菌・消毒ができる。</li> <li>* 手指消毒やグローブの装着・着脱が実施できる</li> <li>* 患者の状態に応じた対応できる。</li> <li>* 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを述べることができる。</li> <li>* チーム医療の必要性を述べることができる。</li> </ul>
成績評価方法	1. 筆記試験 2. 講義への取組み、学習態度、出席状況 以上により総合評価を行い可否を判定する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教材	<b>【教科書】</b> 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第 2 版 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 第 2 版 (医歯薬出版) 適宜資料配布
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	<p>歯科診療補助の概要</p> <p>歯科診療補助の意義</p> <p>補助と介助の違い</p>
2	<p>歯科診療所における受診の流れ</p> <p>患者対応の基本</p> <p>患者誘導</p>
3	<p>医療安全での歯科衛生士の役割</p> <p>共同動作</p> <p>院内感染とは（ハイシリッヒ、偶発事故、インシデントとヒヤリハットの実例）</p> <p>感染事故時の対策（事故報告書、危険予知訓練）</p>
4	<p>感染防止</p> <p>微生物の種類</p> <p>滅菌・消毒の定義、体系</p> <p>歯科医療における感染症の概念</p> <p>リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念</p> <p>歯科医療における感染防止対策</p> <p>医療従事者としての対応、診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での対応</p>
5	<p>滅菌・消毒法</p> <p>分類</p> <p>煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、アルコール高圧蒸気滅菌</p> <p>乾熱滅菌、EOG 滅菌</p> <p>超音波消毒、紫外線消毒、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌他</p>
6	<p>薬液消毒法①</p> <p>消毒薬の作用機序・条件・使用上の注意事項</p> <p>フェノール係数・消毒液の効果影響因子・薬品濃度</p> <p>消毒用エタノール、イソプロパノール、クレゾール石鹼液他</p>
7	<p>薬液消毒法②</p> <p>逆性石鹼液、ヨードチンキ、ポピオンヨード</p> <p>クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム他、</p> <p>器材別滅菌・消毒法</p>
8	<p>医療廃棄物の取り扱い</p> <p>医療廃棄物の種類、バイオハザードマーク</p> <p>感染症の知識</p> <p>B 型肝炎・C 型肝炎・AIDS の知識と滅菌法</p> <p>感染症患者の対応</p> <p>感染症患者治療時の準備・片付けの実例</p> <p>まとめ</p>

3.5. 歯科放射線学

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担当教員名	村井 清彦
授業科目概要	放射線の基礎知識や歯科用 X 線撮影装置、撮影用器材、撮影法、フィルムの現像と管理、放射線防護について学ぶ。更に放射線治療の知識について学ぶ。
目的	放射線の原理及び物理的性質を理解し、歯科臨床において必要な知識と技術を会得する。
学習目標	放射線の基本的な原理を理解する。 歯科用放射線装置について理解し、準備が出来る。 口内法撮影の補助をする。 フィルムの位置付けをする。 口外法撮影の補助をする。 各種フィルムの現像ができる。 フィルムの保管整理をする。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」第2版 最新歯科衛生士教本「歯科放射線学」（医歯薬出版）
留意事項	

授業計画

回	内容
1	放射線の基礎知識 電気、原子 放射線と放射能 放射線と X 線 X 線の性質 物質の透過性 X 線の利用
2	歯科用 X 線装置
3	X 線装置の基本的構造

回	内 容
4	各種のX線装置 パノラマX線装置 頭部X線企画撮影法 撮影用器材 歯科用X線フィルム カセットと増感紙 口内法撮影の補助 歯科のX線撮影とは 中心垂直投影と斜投影 二等分法と平行法
5	撮影に先だって 頭部の固定 フィルムの位置づけ 投影の前準備 各歯牙に対する位置づけ 咬翼法 咬合法 小児の撮影法 口外法撮影の補助 撮影の準備 撮影時の補助
6	フィルムの現像と管理 自動現像 インスタント現像 フィルムの整理と保管
7	放射線防護 放射線被爆 被爆線量の測定 患者の防護 放射線治療の知識
8	まとめ

3.6. 歯科診療補助実習 I

2 単位 (必修)

第 1 学年 (60 時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科診療補助に必要な基礎的技術や歯科材料の種類・性質および基本的な取り扱いを習得する。
目的	実際の歯科診療補助に必要な技術を習得させる。
学習目標	<p>歯科材料実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 診療室の環境と設備を整えられる。</li> <li>* アルジネート印象材の性質を理解し、取り扱いの実技ができる。</li> <li>* 石膏の性質を理解し、取り扱いの実技ができる。</li> <li>* 各種セメント材の性質を理解し、練和できる。</li> <li>* 日常の臨床で頻用される衛生材料の種類とその用途を理解し、各種材料を的確にかつ敏速に作製準備ができる。</li> <li>* 綿栓を手早く巻くことができる。</li> <li>* 手指消毒やグローブの装着・着脱が実施できる</li> </ul> <p>理工学実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 印象材練和後の稠度と経過時間に伴う稠度の変化が説明できる。</li> <li>* 各種石膏の硬化時間および硬化時の温度上昇との関係が説明できる。</li> <li>* 練和した合着用セメントの稠度が粉液比および練和後の時間経過によりどのように変化するか説明できる。</li> </ul> <p>直接対面行為実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* アルジネート印象材を使用して概形印象の採得ができる。</li> <li>* バキューム操作、口腔内洗浄について理解し、患者への負担軽減を考えて迅速、確実、快速に操作ができる。</li> <li>* 診療に応じたバキューム操作ができる。</li> </ul>
成績評価方法	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. 実技試験</p> <p>以上により総合評価を行い合否判定する。</p> <p>・「秀」：90 点以上, 「優」：80～89 点, 「良」：70～79 点, 「可」：60～69 点, 「不可」：59 点以下</p>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」第 2 版 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科材料」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科機器」 (医歯薬出版)</p>
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内容
1. 2	<p>診療設備</p> <p>診療設備の名称と使用法を習得</p>
3. 4	<p>感染予防対策</p> <p>消毒・滅菌の準備と取り扱い</p> <p>手指衛生、グローブ装着・着脱の手順</p>
5. 6	<p>共同動作</p> <p>フォーハンデッドデンティストリーの基本と応用</p> <p>ポジショニング</p> <p>診療時のライティング</p>



回	内 容
7	共同動作 バキュームテクニック、スリーウェイシリンジテクニックの基本
8	共同動作 マネキン実習：バキューム・スリーウェイシリンジ
9.10	共同動作 相互実習：バキューム・スリーウェイシリンジ
11.12	衛生材料作製 綿球・ロールガーゼ・綿栓（消毒用、綿栓）
13～15	模型用材料 種類と基本性質 歯科用石膏注入実習
16.17	印象採得 印象材の種類と基本性質
18～21	印象採得 マネキン実習：アルジネート印象材による概形印象採得（片顎）
22.23	印象採得 相互実習：アルジネート印象材による概形印象採得（片顎）
24.25	合着・接着剤・仮着セメントの基礎知識 種類と用途
26～29	合着・接着剤・仮着セメントの基礎知識 練和法 実習
30	まとめ

## 37. 臨地・臨床実習導入(1)

1単位(必修)

第1学年 (15時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 名塚 有香 安藤 貴美 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	臨地・臨床実習に臨む前段として必要な基礎知識・技術を理解し、臨地・臨床実習で学ぶ意義について考え、取り組み方について総合的に学習する。
目的	臨地・臨床実習の概要を知り実習生として必要な基礎知識・技術を学ぶことに加え、医療の現場で学ぶための自覚を養い、主体的に取り組む態度を習得する。
学習目標	<p>〈到達目標〉</p> <p>実習生として礼節をわきまえた行動ができる</p> <p>臨地・臨床実習の実際を知り、主体的に学ぶことができる</p> <p>〈行動目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生として適切な挨拶、返事を実践できる</li> <li>・実習レポートを記載することができる</li> <li>・「主体的に学ぶ」ということを様々な事例から理解できる</li> <li>・自己の課題とその対策について思索することができる</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、提出物、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	新人歯科衛生士・デンタルスタッフポケットマニュアル(医歯薬出版) プリント
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	臨地・臨床実習とは何か（目的）
2	臨地・臨床実習でのマナー（挨拶・返事・身だしなみ）
3	臨地・臨床実習でのマナー（挨拶・返事・身だしなみ）
4	臨地・臨床実習に必要な基礎知識・技術について
5	臨地・臨床実習での事例（取り組み方について）
6	レポート記入について
7	自己課題の設定について
8	まとめ

## 38. 臨地実習・臨床実習 I

1 単位 (必修)

第 1 学年

(45 時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 名塚 有香 安藤 貴美 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科衛生士とは歯科診療所の中でどのような役割を担っているか。医療人の一員として、歯科衛生士はどのような働きか、実際に働いている歯科衛生士を見て、自分になりたい歯科衛生士像を考える。
目的	臨床の現場を見て医療人とはどうあるべきかを認識させる。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>歯科衛生士とはどのような役割を担っているのかを知る。</p> <p>【到達目標】</p> <p>どのような歯科衛生士が求められているかを感じる。</p> <p>目指す歯科衛生士像が言える。</p>
成績評価方法	<p>1. 臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度</p> <p>2. 出席状況</p> <p>3. レポート</p> <p>以上により総合評価を行い可否判定する。</p>
教材	<p>【教科書】</p> <p>これまでに使用したすべての教科書、プリント</p>
留意事項	<p>実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。</p> <p>注) 授業計画の回数欄は、実習日数毎に分類した数字を示す。</p>

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 見学実習：1
2	歯科診療所 見学実習：2
3	歯科診療所 見学実習：3
4	歯科診療所 見学実習：4
5	歯科診療所 見学実習：5
6	歯科診療所 見学実習：6
7	歯科診療所 見学実習：7

北海道歯科衛生士専門学校

昼間部 2 年生 シラバス

## 1. 心理学

1 単位 (必修)

第 2 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	手戸 一郎
授 業 科 目 概 要	<p>心理学は、心的過程・心的機能や行動について実証的・科学的に推論することにより、心の理解を目指す。心と行動には種々の側面があり、研究領域によって立場やアプローチの方法は異なるが、各領域は相互に重なり合う。</p> <p>ここでは、方法、学習、記憶、思考、言語、感覚、知覚、情動、動機付け、発達、個人差、パーソナリティー、および社会行動に関する基本的考え方を通して、心と行動を包括的に捉えるための手がかりを提示する。教科担当者の経験にもとづく患者と診療側のやりとりのイメージトレーニングを通して、臨床現場で即応出来る為の基礎を学ぶ。</p>
目 的	医療スタッフや患者との対人関係を円滑にするための技法を身につける。
学 習 目 標	自己や他者の心の問題に対処したり、患者への対応に役立てるだけでなく、生体の行動を分析してそれを支える内的過程のメカニズムを推論するなど、心理学の基本的な考え方、知識、方法を修得することを目指し、心理学の応用分野の手法を理解するための基礎的要素を身につける。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上, 「優」：80～89 点, 「良」：70～79 点, 「可」：60～69 点, 「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	第一章 歯科医療の新しい課題
2	第二章 口腔の健康とは何か
3	第三章 なぜ歯科医療は不安を生じさせるか
4	第四章 不安をどう軽減するか
5	第五章 痛みのコントロール
6	第六章 何が歯科医療を妨げているか
7	第七章 セルフケアをどう支援するか
8	第八章 特別の配慮を要する人々とのコミュニケーション
9	第九章 コミュニケーションとインフォームドコンセント
10	まとめ



## 2. 歯科医療倫理学

1 単位 (必修)

第2 学年 (15 時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	<p>一般的な倫理から始まり、医療従事者の一人として、歯科医療を担っていくうえでの必要な倫理的な観念、医療従事者と患者さんとの関係（ラポールの構築）を理解していく。</p> <p>同時に、患者中心の医療を根本として、インフォームド・コンセントについて理解していく。</p> <p>また、歯科医療面接技法を学ぶことにより、患者さんとのスムーズなコミュニケーションのあり方についても考えていく。</p>
目的	患者中心とする医療現場で必要となるコミュニケーション技術やその基礎となる行動科学を学び、チーム医療の一員として円滑な連携を保つ能力を身につける。
学習目標	<p>医療従事者として必要な、倫理・ルール（規範・規律）・法などの概念が理解できる</p> <p>インフォームド・コンセントが理解でき、また、実践できる。</p> <p>歯科医療面接技法を習得することにより、患者さんとのスムーズなコミュニケーションがとれ、良好な医療従事者 - 患者関係が構築できる。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，小テスト，レポート出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版（医歯薬出版）
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	倫理とは何か 倫理とは何か理解できる 社会生活を行う上での倫理がわかる
2	医療現場での倫理とは何か 患者 - 医療従事者の関係について理解できる 医師中心の医療から患者中心の医療へ ムンテラが理解できる インフォームド・コンセントが理解できる 患者の自己決定権の尊重について理解できる
3	歯科衛生士としての心構え 歯科医療の現場での倫理的な基本が理解できる エゴグラムにより自分自身を知る
4	理想の医療人像 どのような資質が医療従事者としてふさわしいか 行動特性尺度により自分自身を知る
5	歯科医療面接技法（1） コミュニケーションとは何か 歯科医療面接技法（2） 歯科医療面接の基本テクニック 傾聴（聞く・聴く・訊く）が理解できる 傾聴のテクニックが理解できる
6	歯科医療面接技法（3） 質問法について 開かれた質問と閉ざされた質問の違い 歯科医療面接技法（4） 歯科医療面接に必要な共感 医療現場における共感とは何か 同情・共感・同感の違い 感情移入とは何かがわかる
7	歯科医療面接技法（5） 医療現場における共感 歯科医療面接技法（6） コミュニケーションを妨げる因子について 患者さんの話を聴けない理由について考える
8	歯科医療面接技法（7） 心のマネージメントとキャリブレーションの方法 医療の現場で冷静な判断力を維持する方法 歯科医療面接技法（8） 歯科医療面接相互実習 傾聴のテクニック
9	歯科医療面接技法（9） 歯科医療面接相互実習 共感
10	歯科医療面接技法（10） 歯科医療面接相互実習 まとめ

## 3. 歯科保存学 (2)

2 単位 (必修)

第 2 学年 1 単位 (15 時間)

担 当 教 員 名	池田 欣希
授 業 科 目 概 要	<p>歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」および「歯科漂白」から構成される。</p> <p>「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。</p> <p>「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法などの各種治療法と臨床術式について説明する。</p> <p>「歯科漂白」では、生活歯および失活歯の漂白法について臨床術式と作用メカニズムを解説する。</p>
目 的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療の対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。さらに、歯の漂白方の概要と臨床術式を習得する。
学 習 目 標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。</li> <li>・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。</li> <li>・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。</li> <li>・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。</li> <li>・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。</li> <li>・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。</li> <li>・ 歯のホワイトニングの手法を列挙できる。</li> <li>・ 生活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> <li>・ 失活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。</li> </ul>
成 績 評 価 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教 材	最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)
留 意 事 項	<p>あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。</p> <p>事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。</p>



## 4. 歯周治療学 (2)

2単位 (必修)

第2学年 1単位 (15時間)

担当教員名	森本 達也
授業科目概要	歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病態と原因、その予防と治療法について学ぶ。 歯周疾患における診査、診断、基本治療、歯周外科処置、再生治療、メンテナンス等について学習する。
目的	歯周病の罹患率が高い現在、歯周治療は歯科衛生士としての実力がもっとも問われる分野である。予防や治療の方法を学び、その目的や理論を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	歯周治療に際し、基礎知識を理解した上で、それぞれの病態に応じた治療法を理解できるようにする。 併せて歯科衛生士の役割、予防とメンテナンスの重要性を認識する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	教科書：最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 (医歯薬出版)
留意事項	関連教科である組織発生学、口腔解剖学、微生物学もしっかり学ぶこと

授業計画

回	内 容
1	歯周治療の実際 基本治療 4 ルートプレーニング 知覚過敏処置
2	歯周治療の実際 基本治療 5 咬合調整、暫間固定
3	歯周治療の実際 歯周外科処置 1 外科的歯周治療の目的 基本手技と使用器具
4	歯周治療の実際 歯周外科処置 2 ポケット搔爬術、新付着術
5	歯周治療の実際 歯周外科処置 3 歯肉切除術、フラップ手術
6	歯周治療の実際 歯周外科処置 4 歯肉歯槽粘膜外科手術 組織再生誘導法
7	歯周治療の実際 咬合性外傷に対する治療法 咬合調整、ナイトガード、固定法 薬物療法
8	歯周治療の実際 歯周組織の治癒の形態と再生治療 矯正治療
9	歯周治療の実際 歯周治療後のメンテナンス、歯科衛生士の役割
10	歯周治療の実際 患者管理 病状の理解、心理状態の把握 治療後の援助 器具の消毒法 総括

## 5. 歯科補綴学 (2)

2 単位 (必修)

第 2 学年 1 単位 (15 時間)

担 当 教 員 名	櫻井 泰輔
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物 (補綴装置) を用いて口腔の諸機能および、外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績, 出席状況, 受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」: 90 点以上, 「優」: 80~89 点, 「良」: 70~79 点, 「可」: 60~69 点, 「不可」: 59 点以下</li> </ul>
教 材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴」 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科補綴治療の臨床：部分床義歯 臨床ステップ
2	歯科補綴治療の臨床：部分床義歯 分類と構成
3	歯科補綴治療の臨床：全部床義歯 構成要素
4	歯科補綴治療の臨床：全部床義歯 臨床ステップ
5	歯科補綴治療の臨床：インプラント 臨床ステップ
6	歯科補綴治療に用いられる器材とその管理
7	即時義歯 暫間義歯 治療義歯 オーバーデンチャー
8	補綴装置の補修、除去
9	下顎運動および咬合機能検査
10	まとめ



## 6. 口腔外科学 (2)

2 単位 (必修)

第 2 学年 1 単位 (15 時間)

担 当 教 員 名	北川 善政
授 業 科 目 概 要	口腔顎顔面領域には、炎症、外傷、形態異常、腫瘍、嚢胞など様々な疾患が発生し、その中には、口腔に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身の部分症状として現れる疾患がある。このように口腔外科は、医科と歯科の境界領域を担う科目である。それぞれの原因、病態と症状・所見との関係、診断法、治療法について理解し、歯科衛生士としての診療における役割と実際面について習得する。
目 的	口腔外科領域の主な疾患と術式を理解し、口腔外科手術の準備、介助、術後のケアについて理解する。
学 習 目 標	5) 口腔外科疾患の処置・手術に当たっては、病気の全体像（発病因と予後）を把握した上で介助を行うことができる。 6) 種々の口腔疾患に対する口腔外科手術、全身麻酔、局所麻酔における術式を理解し、口腔疾患を取り扱う上での歯科衛生士の役割を認識する。 7) 簡単な検査結果を正しく理解し、処置・手術時の不快症状（バイタルサイン）に早急に対応できる認識能力をつける。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 口腔外科学・歯科麻酔（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	口腔領域の腫瘍
2	唾液腺疾患
3	口腔領域の神経疾患 神経痛 神経麻痺
4	血液疾患と出血性素因
5	口腔外科診療の実際 診察と診断 診察と診断の過程における 歯科衛生士の役割
6	創傷処置
7	抜歯術 適応症と禁忌症 器材の準備 抜歯の実際と介助
8	口腔外科小手術 歯槽整形および骨瘤除去手術 口腔インプラント 切開・排膿の手術 嚢胞摘出術 歯および歯槽骨外傷の処置
9	口腔出血に対する処置法 止血法と止血剤 止血処置の実際と介助
10	口腔ケア 嚥下障害と誤嚥性肺炎 癌治療における口腔ケア

## 7. 歯科麻酔学・有病者歯科医療

2単位（必修）

第2学年（30時間）

担当教員名	石田 義幸
授業科目概要	歯科を訪れる人の中には様々な医科的疾患を持っていることが少なくない。超高齢社会においてはますます増加する。全身的な疾患の中には歯科治療を行うことでリスクが高くなるものがある。それらを学び歯科衛生士として対処の仕方を学ぶ。
目的	さまざまな全身疾患を持っている患者の特性を理解し、歯科衛生士として対応できるようにする。 歯科領域で用いられる麻酔薬について、その種類と適応例、及び作用機序を理解して臨床に役立てる。
学習目標	有病者に対する理解と疾病に対する基本的な理解を高め、歯科治療時に必要な声かけやモニター類の取り付け方、読み方、正常範囲等を学ぶ。 歯科領域で行う麻酔について理解でき、診療の介助が正しくできる。 管理上問題になる全身疾患について理解できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 口腔外科学・歯科麻酔（医歯薬出版）
留意事項	

## 授業計画

回	内容
1	有病者歯科医療と麻酔学 麻酔学総論
2	麻酔の概念、麻酔・歯科麻酔の歴史 歯科臨床と麻酔学
3	麻酔に必要な基礎知識 物理化学
4	麻酔に必要な基礎知識 物理化学
5	麻酔に必要な基礎知識 生理(1)

回	内 容
6	麻酔に必要な基礎知識 生理(1)
7	麻酔に必要な基礎知識 生理(2)
8	麻酔に必要な基礎知識 生理(2)
9	術前の全身状態評価 全身状態評価法と管理法
10	術前の全身状態評価 全身状態評価法と管理法
11	術前の全身状態評価 管理上問題となる疾患(1)
12	術前の全身状態評価 管理上問題となる疾患(1)
13	術前の全身状態評価 管理上問題となる疾患(2)
14	術前の全身状態評価 管理上問題となる疾患(2)
15	術前の全身状態評価 管理上問題となる疾患(3)
16	術前の全身状態評価 管理上問題となる疾患(3)
17	モニタリング
18	精神鎮静法
19	全身麻酔
20	まとめ

## 8. 小児歯科学 (2)

2 単位 (必修)

第 2 学年 1 単位 (15 時間)

担 当 教 員 名	中村 光一
授 業 科 目 概 要	小児の成長発育および精神発達、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科の問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する
目 的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 小児の成長発育を説明できる</li> <li>⑩ 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる</li> <li>⑪ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる</li> <li>⑫ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる</li> <li>⑬ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる</li> <li>⑭ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる</li> <li>⑮ 咬合誘導装置、口腔習癖除去装置の種類と意義を説明できる</li> <li>⑯ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる</li> </ul>
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満したのものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 小児歯科 (医歯薬出版)</p>
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	小児歯科診療における 歯科衛生士の役割(2) (診療補助・保存修復 ラバーダム防湿・コンポジットレジン充填)
2	小児歯科診療における 歯 科衛生士の役割(3) (保存修復 インレー修復)
3	小児歯科診療における 歯科衛生士の役割(4) (保存修復 乳歯冠・コンポジットレジン冠)
4	小児歯科診療における 歯科衛生士の役割(5) (歯内療法)
5	小児歯科診療における 歯科衛生士の役割(6) (歯内療法 歯髄鎮静法・歯髄切断法・抜髄法・感染根管治療)
6	小児歯科診療における 歯科衛生士の役割(7) (外科的処置 抜歯・外傷歯の処置)
7	小児歯科診療における 歯科衛生士の役割(8) (咬合誘導)
8	小児の口腔保健管理
9	まとめ (1) 基礎知識
10	まとめ (2) 臨床におけるポイント

## 9. 矯正歯科学 (2)

2 単位 (必修)

第 2 学年 1 単位 (15 時間)

担 当 教 員 名	工藤 悠介
授 業 科 目 概 要	正常咬合と咬合異常 診査、診断 治療方法、治療計画
目 的	咬合、診断法、治療の術式および、長期にわたる治療やフォローについて理解する。
学 習 目 標	⑦ 正常咬合と咬合異常を理解し説明できる ⑧ 咬合異常の治療の種類を理解し、内容を説明できる ⑨ 使用器材の名称および使用方法を説明できる ⑩ 矯正装置の名称および使用方法を説明できる ⑪ 矯正装置のメカニクスを説明できる ⑫ 矯正治療における診療補助の前準備、術式、使用器材、メンテナンス、注意点を説明できる
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，小テスト，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 2 歯科矯正 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	矯正装置・1
2	矯正装置・2
3	保定
4	歯科矯正治療の実際 早期治療の必要性 乳歯列期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合 混合歯列期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合
5	永久歯咬合期の歯科矯正治療 成人の歯科矯正治療
6	歯科矯正における歯科衛生士の役割 矯正臨床における歯科衛生士の役割 歯科矯正治療開始前の診査、資料収集、診断、治療前の説明と承諾 予防処置と口腔衛生指導
7	口腔習癖の除去 患者教育と患者管理
8	矯正治療中の装置の破損、応急処置 ボンディングの前準備とアーチワイヤーの装着
9	歯間離開、バンド適合、溶接
10	消毒・殺菌・滅菌 事務管理 まとめ



## 10. 障害者歯科 (2)

2単位 (必修)

第2学年 1単位 (15時間)

担当教員名	今渡 隆成
授業科目概要	障害者の特性を把握し、障害の種類と歯科的特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその知識・技術について学習をする。
目的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び、歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績, 出席状況, 受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」: 90点以上, 「優」: 80~89点, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版 (医歯薬出版)
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	障害者の歯科診療と歯科診療補助 診療の基本的流れと対応 行動調整における歯科診療補助の実際
2	障害者の歯科診療と歯科診療補助 歯科診療時の工夫と留意点 局所麻酔、ラバーダム防湿、歯の切削、印象採得
3	障害者の歯科診療と歯科診療補助 歯科診療時の工夫と留意点 修復物や補綴物の装着、歯内療法、歯周治療、抜歯
4	障害者の歯科診療と歯科診療補助 障害別の対応
5	障害者の歯科診療と歯科診療補助 全身状態への配慮
6	障害者の歯科診療と歯科診療補助 業務記録の必要性和書き方 障害者の口腔保健管理 歯科衛生士による障害者の口腔保健管理 日常生活における障害者の口腔保健管理
7	障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際 知的障害、肢体不自由、精神障害、てんかん
8	障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際 食環境の指導、食事姿勢の指導 歯科保健指導の連携
9	障害者歯科医療、保健施設における歯科衛生士の役割
10	まとめ

## 11. 高齢者歯科(2)

2単位(必修)

第2学年 1単位 (15時間)

担当教員名	小野 智史
授業科目概要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 「高齢者歯科」第2版(医歯薬出版)
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	III編 高齢者の状態の把握 3章 高齢者の栄養状態 4章 高齢者の薬剤服用
2	III編 高齢者の状態の把握 4章 高齢者の薬剤服用 IV編 口腔ケア 1章 高齢者に対する口腔ケア
3	IV編 口腔ケア 1章 高齢者に対する口腔ケア 2章 有病高齢者への口腔ケア
4	IV編 口腔ケア 2章 有病高齢者への口腔ケア
5	IV編 口腔ケア 3章 要介護高齢者への口腔ケア
6	V編 摂食、嚥下リハビリテーション
7	V編 摂食、嚥下リハビリテーション 2章 摂食、嚥下の評価と対応
8	V編 摂食、嚥下リハビリテーション 2章 摂食、嚥下の評価と対応
9	V編 摂食、嚥下リハビリテーション 2章 摂食、嚥下の評価と対応
10	まとめ

## 12. 歯科予防処置論 (2)

2単位 (必修)

第2学年 1単位 (15時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科の二大疾患である「う蝕」や「歯周病」についての理解を深め、口腔保健を向上させるために必要な予防処置の基本知識、技能、術式、および態度について総合的に学習する。
目的	歯科疾患を予防し、人々の歯・口腔内の健康を維持・増進させるために、歯科予防処置に必要な知識・技術、および態度を習得する。
学習目標	1年次 ①正常な歯・歯周組織と口腔の機能について概説できる。 ②歯・口腔の健康状態を把握するための項目が列挙できる。 ③プラークの形成過程と成分について説明できる。 ④歯石の形成過程と成分について説明できる。 2年次 ①う蝕の原因と進行、予防方法について説明できる。 ②歯周病の原因と分類、進行および予防方法について説明できる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、提出物(レポートなど)、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」:90点以上, 「優」:80~89点, 「良」:70~79点, 「可」:60~69点, 「不可」:59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版) プリント
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	<p>カリオロジー・1</p> <p>う蝕の発生要因について</p> <p>う蝕原因菌について</p> <p>歯垢の成熟と細菌叢</p>
2	<p>カリオロジー・2</p> <p>脱灰と再石灰化について</p> <p>ステファンカーブ、臨界pHについて</p>
3	<p>カリオロジー・3</p> <p>発酵性糖質、非発酵性糖質について</p> <p>う蝕原因菌の糖代謝と菌体外多糖類について</p>
4	<p>カリオロジー・4</p> <p>う蝕治療の流れ</p> <p>う蝕の進行と必要な保存修復・歯内療法について</p>
5	<p>カリオロジー・5</p> <p>う蝕と全身疾患</p>
6	<p>ペリオドントロジー・1</p> <p>歯肉炎・歯周炎について</p> <p>歯肉炎から歯周炎の進行について</p> <p>仮性ポケット、真性ポケット（骨縁上、骨縁下）の違い</p> <p>歯周組織検査について</p>
7	<p>ペリオドントロジー・2</p> <p>歯垢・歯石の生成過程・組成・為害作用・好発部位</p> <p>歯周病原性細菌</p> <p>バイオフィルムについて（形成プロセス・特徴）</p>
8	<p>ペリオドントロジー・3</p> <p>歯周治療の中での歯科衛生士の役割・重要性</p> <p>歯石除去（スケーリング）の意味・重要性</p> <p>根面滑沢化（ルートプレーニング）の意味・重要性</p>
9	<p>ペリオドントロジー・4</p> <p>歯周炎の治療の流れ</p> <p>歯周初期治療について</p> <p>歯周初期治療後の外科処置</p> <p>治療後の治癒過程</p>
10	<p>ペリオドントロジー・5</p> <p>歯周疾患と全身疾患</p>

13. 予防的歯石除去法実習（2）

5単位（必修）

第2学年 2単位（60時間）

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	マネキン上で習得した歯石除去技術を口腔内で実践し、各種器具の使用法や術前後の処置、器材の後始末、メンテナンスなどについて習得する。
目的	歯石除去を口腔内で実践するために、歯石除去技術の向上を図り、患者の反応を見ながら施術する習慣を身につけさせる。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① マネキン上でキュレット操作ができる。</li> <li>② 相互実習により、鎌型スケーラーを使用して歯石除去ができる。</li> <li>③ 相互実習により、キュレット操作ができる。</li> <li>④ 相互実習により、歯面研磨ができる。</li> <li>⑤ 歯石除去後のメンテナンスができる。</li> <li>⑥ 個々の口腔内にあった方法で歯石除去できる。</li> <li>⑦ シャープニングができる。</li> <li>⑧ 症例検討の目的、進め方を説明でき、自ら症例検討ができる。</li> <li>⑨ 歯面清掃器、PMT Cの器材、目的、方法を説明できる。</li> </ol>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論（医歯薬出版） プリント配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す

授業計画

回	内 容
1	キュレット操作に使用する器械器具 顎模型上で実習
2	歯石除去 マネキン実習 (キュレット操作、ホームポジション)
3～6	歯石除去 マネキン実習 (キュレット操作、上顎前歯部)
7～10	歯石除去 マネキン実習 (キュレット操作、下顎前歯部)
11～14	歯石除去 マネキン実習 (キュレット操作、上顎臼歯部・1)
15～18	歯石除去 マネキン実習 (キュレット操作、上顎臼歯部・2)
19～22	歯石除去 マネキン実習 (キュレット操作、下顎臼歯部・1)
23～26	歯石除去 マネキン実習 (キュレット操作、下顎臼歯部・2)
27～35	相互実習 歯周組織検査 鎌型スケーラー 歯面研磨・口腔内洗浄
36, 37	歯石除去用器械器具について 超音波スケーラー、エアスケーラーの原理と構成、特徴、使用方法 歯面清掃器の特徴、使用方法 マネキン実習 超音波スケーラー、エアスケーラー
38, 39	相互実習 キュレット操作 超音波スケーラー、エアスケーラー
40	総括・復習



## 14. 歯科保健指導論（2）

2単位（必修）

第2学年 1単位（15時間）

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科衛生士業務の一つである歯科保健指導は、人々の日常生活の中の習慣や行動により、自らの健康の維持や増進することを助け、歯科保健向上に役立つように指導や教育を行うことである。歯科保健指導の概要を知ることにより対象となる人々の生活・習慣を学び、より健康支援の方法を説明できることを目的とする。
目的	個人・小集団を対象とした歯科保健指導ができるようになるための基礎知識・技術を習得する。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ライフステージの保健行動と指導目標を説明できる。</li> <li>* コミュニケーションにカウンセリング技法を応用できる。</li> <li>* 対象者の情報が把握できる。</li> <li>* 保健指導の手順を説明できる。</li> <li>* 業務記録のとり方を説明できる。</li> <li>* 心身の状態別に保健指導計画をたてられる。</li> <li>* カウンセリング技法を理解し、パラカウンセラーとして活用できる。</li> <li>* 業務記録の目的を説明できる。</li> <li>* 対象集団別の指導計画をたてられる。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論（医歯薬出版）、プリント</p>
留意事項	<p>対象となる人を理解し、パラカウンセラーの役割をはたせるようにする。</p> <p>注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。</p>

授業計画

回	内 容
1	歯科衛生過程 1 歯科衛生過程の概要、歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、
2	歯科衛生課程 2 歯科衛生計画立案、優先順位の決定、目標の設定、歯科衛生介入方法の決定
3	歯科衛生課程 3 歯科衛生介入、歯科衛生評価
4	歯科衛生過程 4 まとめ 歯科保健指導と業務記録
5、6	歯の汚れ測定法 1 歯周疾患の指数 PMA PI GI CPI
7	歯の汚れ測定法 2 指数の演習
8	喫煙者に対する指導
9	小集団指導法 総論 対象集団別指導の考え方
10	まとめ

## 15. 訪問歯科保健指導論

1 単位 (必修)

第2学年 (15時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	訪問診療を必要とする人の様々な実態を理解し、それぞれに対応した保健指導のあり方を学ぶ。
目的	訪問診療の現場においてかかわる他職種との連携について学び、訪問歯科保健指導の実際について理解する。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 訪問歯科保健指導の内容が説明できる。</li> <li>② 在宅の限られた条件の下で歯科保健指導ができる。</li> <li>③ 口腔清掃の自立度に応じた指導ができる。</li> <li>④ 訪問歯科保健指導の業務記録ができる。</li> <li>⑤ 訪問歯科保健指導に必要なアセスメントをとることができる。</li> <li>⑥ アセスメント結果に応じた保健指導計画がたてられる。</li> <li>⑦ 在宅療養者にかかわる職種との連携方法を説明できる。</li> <li>⑧ 歯科訪問診療に必要な器具、材料を用意できる。</li> <li>⑨ 歯科診療時の口腔保健指導に必要な留意点が列挙できる。</li> <li>⑩ 訪問の場の違いに応じた保健指導ができる。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 口腔保健管理 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 (医歯薬出版)</p> <p>資料配布</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	歯科口腔介護の意義と目的 歯科介護の定義
2	歯科口腔介護の関連知識 手順と方法 各制度下での歯科口腔介護 要介護高齢者への接し方
3	歯科介護に必要な歯科基礎医学・1 高齢者の全身疾患
4	歯科介護に必要な歯科基礎医学・2 口腔内の問題点
5	訪問歯科保健指導の基本手技・1 口腔清掃法 口腔清掃時の体位 器具の工夫
6	訪問歯科保健指導の基本手技・2 義歯に関するケア 介護・歯科口腔介護に役立つ薬剤
7	訪問歯科保健指導の基本手技・3 介護・歯科口腔介護のための器材 機能訓練
8	訪問歯科保健指導の業務記録 高齢者の生活機能の評価
9	歯科衛生士が行う在宅訪問歯科保健指導・1 歯科介護の手順と方法（実践）
10	歯科衛生士が行う在宅訪問歯科保健指導・2 歯科介護の手順と方法（実践） まとめ

## 16. 歯科保健指導実習 (2)

5単位 (必修)

第2学年 2単位 (60時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 専門的・基礎的知識を整理し、症例分析に役立てることができる</li> <li>* 対象別の歯科保健の知識がいえる</li> <li>* それぞれ対象別の問題点を理解し、個人に適した指導計画を立てることができる</li> <li>* 指導に必要とされる媒体などを正しく選択できる</li> <li>* カウンセリング技法を理解し、バラカウンセラーとして活用できる</li> <li>* 主事の歯科医師の指導方針を把握することができる</li> <li>* 患者や相談者の訴えを正確にとらえることができる</li> <li>* 全身状態や口腔の状態の特徴をつかむことができる</li> <li>* イニシャルプレパレーションの目的と定義が言える</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版)、プリント
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

## 授業計画

## 【第2学年】

回	内容
1、2	面接・問診法実習、コミュニケーショントレーニング
3	診療録、問診事項検討実習
4、5	初診時面接法実習 保健指導時面接法実習

回	内 容
6～9	相互実習 ブラッシング指導モデル実習
10、11	口腔内写真撮影法
12～15	口腔内写真撮影実習
16～18	症例検討法実習（1）（2） 下顎大白歯にブリッジ装着のケース、部分床義歯装着のケース
19～21	症例検討法実習（3）（4） 高度な分岐部病変を有する歯周疾患のあるケース、強い指しゃぶりの習慣があるケース
22～24	症例検討法実習（5）（6） 第一大臼歯が崩出途上にあるケース、甘味嗜好が強く、う食が多発しているケース
25～28	保健指導話法実習
29、30	小集団指導法実習 発声・朗読法実習
31～40	小集団用講和台本作成法実習

## 17. 歯科診療補助論(2)

2単位(必修)

第2学年 1単位 (15時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科診療補助を行う際の全般的な知識・技術を理解し、術者との共同動作や対面行為の実際について学ぶ。各分野における処置別歯科診療補助法の実際として、器材のセッティング、処置の流れに沿った的確な介助法、処置後のメンテナンス、器材の後始末などについて習得させる。
目的	歯科診療の補助を理解し、患者に対する直接対面行為の実際を学ぶ。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>歯科診療の各処置内容を理解し、前準備と術式の流れに沿って使用器材受け渡し法、診療中の患者対応、処置後の患者指導および器材の後始末などの知識・技術を習得し診療補助実習に繋げる。</p> <p>【行動目標(到達目標)】</p> <p>1年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 歯科診療補助の意味が説明できる。</li> <li>* 共同動作の意義と補助者の位置と姿勢が説明できる。</li> <li>* 歯科診療の流れを理解したうえでの歯科診療補助の重要性を理解する。</li> <li>* 歯科材料の基本的性質、用途、取扱いについて科学的に理解する。</li> <li>* 患者誘導、ポジション、姿勢、ライティングの基本が説明できる。</li> </ul> <p>2年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 器材の受け渡しの基本が説明できる。</li> <li>* 口腔内洗浄・バキューム操作法について説明できる。</li> <li>* 各々対象者にあつた患者介助の方法が説明できる。</li> <li>* 歯科診療中の事故と対策について説明できる。</li> <li>* 診療中の偶発事故の防止および対処法の説明ができる。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満したのものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」第2版 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科材料」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科機器」 (医歯薬出版)</p> <p>適時資料配布</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	歯科器具・器材 歯科補綴 1 I n ・ C r 製作
2	歯科器具・器材 歯科補綴 2 B r 製作
3	歯科器具・器材 歯科補綴 3 義歯製作
4	歯科器具・器材 歯科保存 1 コンポジットレジン充填処置
5	歯科器具・器材 歯科保存 2 麻酔抜髄処置・感染根管処置
6	歯科器具・器材 歯科保存 3 根管充填処置
7	歯科器具・器材 歯科口腔外科 1 抜歯・歯周外科処置
8	歯科器具・器材 歯科口腔外科 2 (インプラント) 1 次手術 ・ 2 次手術 ・ 上部構造 (補綴)
9	歯科器具・器材 歯科矯正 1 プライヤー
10	歯科器具・器材 歯科矯正 2 装置



## 18. 介護技術

1単位（必修）

第2学年（15時間）

担当教員名	加藤 ミサ子
授業科目概要	患者および障害者、要介護者の身体介護ができ、記録を残せる。 将来、障害者歯科治療、歯科口腔介護、歯科訪問治療、訪問歯科衛生指導、居宅療養管理指導を行うにあたり必要となる身体介護技術、業務記録作成法、カンファレンス法を習得させる。
目的	身体介護を行うにあたり、障害者、要介護者の特性を理解し、介護がより人間的な行為であることを認識させ実習で実践できるようにする。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護とは、介護（実習）の心構えを説明できる。</li> <li>2. 共感的理解と基本的態度の形成ができる。</li> <li>3. 寝具の整え方、ベッドメイキングの方法がわかる</li> <li>4. 寝床上での体位・姿勢交換、褥瘡への対応、シーツ交換の方法がわかる</li> <li>5. 高齢者、障害者と栄養・食生活のあり方を説明できる。</li> <li>6. 在宅看護の基礎知識を説明できる。</li> <li>7. 加齢と食事、嚥下困難な人の食事介助ができる。</li> <li>8. 薬の種類と投薬方法を患者に説明できる。</li> <li>9. 入浴介助、衣服の着脱、寝巻きの交換ができる。</li> <li>10. 身体の清潔（全身清拭、部分浴）、整容動作の介助ができる。</li> <li>11. 家具・車椅子等への移乗の介助、車椅子での移乗の介助ができる。</li> <li>12. 排泄のケア、失禁への対応ができる。</li> <li>13. 肢体不自由者の歩行の介護、視覚障害者の歩行等の介助法を知る。</li> <li>14. 訪問介護計画（ケア計画）がたてられる。</li> <li>15. 情報収集とニーズの発見ができる。</li> <li>16. 業務における訪問介護計画のたて方を説明できる。</li> <li>17. 援助内容の見直しができる。</li> <li>18. 介護事例検討ができる。</li> </ol>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【参考資料】</p> <p>介護基礎学（医歯薬出版）</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	介護基礎学 総論、 介護とは何か QOL, ADLとは ADL障害の介護基礎学 廃用症候群の3つのとらえ方 高齢者のADL
2	ADLと座位の医学、生理学 脱水の医学 加齢と食事、嚥下困難な人の食事介助 総論 介護と歯科口腔介護
3	歯科口腔介護に必要な基礎知識 老化 高齢有病者の歯科的特徴と問題点 摂食・嚥下障害
4	痴呆性老人の介護基礎学：1 痴呆性老人とは 痴呆性老人の原因、症状
5	老人性痴呆の介護基礎学：2 痴呆性老人のケア 在宅、施設におけるケア
6	基本介護技術 食事介助、家具・車椅子等への移乗の介助、車椅子での移乗の介護、排泄のケア、失禁への対応 肢体不自由者の歩行の介護、視覚障害者の歩行等の介護
7	基本介護技術 入浴介助、衣服の着脱、寝巻きの交換
8	基本介護技術 身体の清潔（全身清拭、部分浴）整容動作の介助 寝具の整え方、ベッドメイキングの方法
9	訪問介護計画（ケア計画）の方法 訪問介護（ケア計画）、情報収集とニーズの発見、業務における訪問介護計画の方法、援助内容の見直し
10	まとめ

## 19. 歯科診療補助実習(2)

5単位(必修)

第2学年 2単位(60時間)

担当教員名	折野 裕太 中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科診療補助で学習した基礎知識をもとに、歯科器材の取り扱い方、術者との共同動作、各分野における処置別歯科診療補助法を習得させる。学習した歯科診療補助技術の熟練度を確し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目的	これまでの知識を関連づけて、歯科診療補助論での基本知識をもとに歯科衛生士として必要な知識と技術を習得する。 卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯周治療、歯周外科の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 光重合型コンポジットレジン充填の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 根管充填の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 清潔・不潔の概念を理解し、困難抜歯やおもな小手術の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 小児歯科治療の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 麻酔抜髄・根管治療の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 義歯装着時のセッティングができる。</li> <li>・ 寒天とアルジネート印象材の特性を理解し、連合印象採得の準備と説明ができる。</li> <li>・ 相互で連合印象採得ができる。</li> <li>・ 暫間被覆冠の目的を理解し、準備と手順が説明できる</li> <li>・ 暫間被覆冠を模型上で製作できる。</li> <li>・ 補綴物製作の流れを理解し、説明できる。</li> <li>・ 歯科器械のメンテナンスができる。</li> <li>・ 個々の患者にあった、適切な介助ができる。</li> <li>・ 就業にあたっての心構えをもてる。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」第2版 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科材料」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科機器」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴学」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「口腔外科学・歯科麻酔学」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「小児歯科学」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正学」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科放射線学」 (医歯薬出版)</p> <p>適時資料配布</p>
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容	
1～5	セッティング実習	保存修復・コンポジットレジン
6～10	セッティング実習	保存修復・麻酔抜髄、感染根管
11、12	セッティング実習	保存修復・根管充填
13～15	セッティング実習	保存修復・メタルインレー、メタルクラウン、ブリッジ
16～18	相互実習	アルジネート全顎印象・石膏注入（スタディモデル作製）
19、20	ワックスの取り扱い、咬合採得	
21、22	マネキン実習	寒天印象材、アルジネート連合印象
23、24	技工室操作	補綴物ができるまで
25、26	暫間被覆冠作製実習	右上1番既製冠
27～30	相互実習	アルジネート片側印象・咬合採得 レジン系仮封材
31、32	相互実習	バキューム操作・アルジネート全顎印象
33	歯科用材料の取り扱い	アルジネート機械練和
34、35	歯科用材料の取り扱い	リベース材・ティッシュコンディショナー・ゴム質印象材
36、37	歯科用器具の取り扱い	外科器具・縫合針・持針器
38	歯科用器具の取り扱い	矯正器具
39、40	歯科用材料の取り扱い	セメント練和

## 20. 臨地実習・臨床実習(2)

26単位(必修)

第2学年 13単位 (585時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術(歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護)を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。</li> <li>② 患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。</li> <li>③ 受付応対事務ができる。</li> <li>④ 歯科予防処置ができる。</li> <li>⑤ 年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。</li> <li>⑥ 予診における歯科診療補助ができる。</li> <li>⑦ 歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑧ 歯周治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑨ 補綴治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑩ 口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑪ 矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑫ 小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑬ X線撮影の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑭ 障害者歯科治療時の診療補助ができる。</li> <li>⑮ 訪問歯科治療時の診療補助ができる。</li> <li>⑯ 訪問歯科衛生指導ができる。</li> <li>⑰ 介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。</li> <li>⑱ 公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。</li> <li>⑲ 歯科技工所の役割、業務が理解できる。</li> </ol>
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習記録、レポート</li> <li>2. 臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度</li> <li>3. 出席状況</li> </ol> <p>以上により総合評価を行い可否判定する。</p> <p>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</p>
教材	<p>【教科書】</p> <p>これまでに使用したすべての教科書、プリント</p>
留意事項	<p>注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。</p> <p>実習に臨む心構えをきちんともたせ、礼儀作法や身だしなみに注意させる。</p>

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 見学実習
2	介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 見学実習
3	歯科予防処置 器材の準備と消毒・滅菌法、口腔内不潔度検査、歯口清掃指導、フッ化物歯面塗布法、フッ素洗口法、フッ化ジアンミン銀塗布法、小窩裂溝充填塞法、歯面研磨法、貼薬法、シャープニング、歯科疾患・口腔清掃に関する統計処理
4	歯科診療補助 <受付対応事務> 患者・訪問者の受付対応、電話の対応、診療申込書記入の指導、カルテの作成、患者誘導、経理事務 アポイント、リコール、服薬指導
5	歯科診療補助 <予診> 予診表の記載・整理・診査・検査用器材の準備と消毒・滅菌、診査表の記入、バイタルサイン、歯科保健指導
6	歯科診療補助 <歯科保存治療> 歯科保存治療用器材の準備と消毒・滅菌・歯科保存治療に用いられる薬剤、材料の準備と管理、バキューム操作法、ラバーダム防湿法、仮封操作、コンポジットレジン修復・インレー修復の診療介補と研磨法、歯髄鎮静・歯髄覆罩 歯髄除去・根管治療・根管充填法の介補、保存修復処置患者へのメンテナンス
7	歯科診療補助 <歯周治療> 歯周組織検査、歯周治療用器材の準備と消毒・滅菌、薬剤・材料の準備と管理、スケーリングとルートプレーニング 歯周ポケット搔爬術・歯肉切除術・歯肉剥離搔爬術・その他歯周外科の介補、術後のメンテナンス
8	歯科診療補助 <歯科補綴治療>
9	歯科診療補助 <口腔外科・歯科麻酔治療> 口腔外科治療用器械の準備と消毒・滅菌、口腔外科治療に用いる薬剤・材料の取り扱いと保管、膿瘍切開時・嚢胞摘出手術時・歯槽骨整形術時・外傷時の介補、救急蘇生法、感染患者への対応、口腔外科大手術の見学、病棟見学、術後のメンテナンス
10	歯科診療補助 <矯正歯科治療> 矯正治療用器械・材料の準備と消毒・滅菌法、スタディモデル作製、酸処理・歯面研磨、舌側弧線装置・床矯正装置 機能的矯正装置・保定装置装着時の介補、矯正歯科治療患者へのメンテナンス
11	歯科診療補助 <小児歯科>
12	歯科診療補助 X線撮影の補助、レントゲンの現像、管理
13	歯科診療補助 障害者歯科治療時の介補
14	訪問歯科診療 要介護者・障害者宅における歯科治療（義歯作製・修理、保存修復処置時他）の介補 訪問歯科保健指導 歯科口腔介護
15	歯科保健指導 歯科保健指導（狭義） 対象者別個別歯科保健指導
16	歯科保健指導 歯科保健教育 保健所：地域保健福祉センター総合オリエンテーション 幼稚園、保育園：幼児・母子（療育者）・保母に対する歯科保健教育、歯科検診介助
17	歯科技工所見学実習
18	歯科診療補助 予診 予診表の記載・整理・診査・検査用器材の準備と消毒・滅菌、診査表の記入、バイタルサイン、歯科保健指導

## 2 1. 歯科接遇作法

1 単位 (選択)

第 2 学年 (1 5 時間)

担 当 教 員 名	田中 みどり
授 業 科 目 概 要	<p>礼儀を押さえる事が、いかに重要か理解を深め、自己トレーニング法を導入し授業後も自分磨きができるよう個人指導強化の授業。</p> <p>好印象を与える要素を理解し、実践で表現できるように指導。</p> <p>「ケアコミュニケーション」のスキルアップをはかる。</p>
目 的	<p>接遇 イコール ケアである事を理解し、患者様に対してだけでなく人とのコミュニケーションを大切にできる学生を育成する。</p> <p>社会人としての心得を押さえ、自信をもって社会に羽ばたける学生を育てる。</p>
学 習 目 標	接遇を頭の理解にとどまらず、具体的に表現するテクニックを体得する
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	特になし (プリント配布)
留 意 事 項	必ず実技を伴うこと。

授業計画

回	内 容
1	医療従事者としての接遇とは 第一印象の重要性（セルフチェック） 患者様への好感度の高い接し方
2	立ち居振る舞い 声の演出（呼吸法・発声法・他）
3	言葉遣い 敬語・表現法 心に響く話し方
4	来客対応 患者様優先の心づかい 誘導・戸の開閉・物授受・名刺取扱・上座・お茶コーヒーの出し方 他
5	電話対応 電話のコミュニケーション 実践
6	クレーム対応
7	ケアコミュニケーション 1
8	ケアコミュニケーション 2
9	授業総括 演習 ロールプレー
10	昼間部（プレゼンテーション） 個人別アドバイス



## 2.2. 医療情報処理技術

2単位（選択）

第2学年（30時間）

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	基礎的な診療におけるカルテの内容を理解し、臨床の場でカルテ管理・患者管理などスムーズに対応できる知識と技術を習得する。
目的	基礎的なカルテの内容を理解し、診療の流れと関連させることができる。
学習目標	基礎的な診療の流れを理解できる 医療保険制度、診療報酬請求について理解できる 診療の流れとカルテ内容を関連づけて理解できる
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	【教科書】 資料配布
留意事項	

## 授業計画

回	内容
1	カルテの基礎知識 1号紙、2号紙について 基本診療料について 医学管理料、提供文書について カルテ略称について
2	カルテ 画像診断 歯周治療
3	カルテ 歯周治療（問題演習）
4	カルテ 歯周治療（問題演習）
5	カルテ 光CRF

回	内 容
6	カルテ 光C R F (問題演習)
7	カルテ 光C R F (問題演習)
8	カルテ インレー形成～装着
9	カルテ インレー形成～装着 (問題演習)
10	カルテ 麻酔抜髄～根管充填 (問題演習)
11	カルテ 麻酔抜髄～根管充填 (問題演習) 感染根管処置～根管充填
12	カルテ 感染根管処置～根管充填 (問題演習) 支台築造
13	カルテ 支台築造 (問題演習) 歯冠修復物
14	カルテ 支台築造～歯冠修復物 (問題演習)
15	カルテ 支台築造～歯冠修復物 (問題演習)
16	カルテ B r 印象～装着
17	カルテ B r 印象～装着 (問題演習)
18	カルテ 有床義歯
19	総合問題・まとめ
20	総合問題・まとめ

23. 臨床検査法

1単位(選択)

第2学年 (15時間)

担当教員名	本間 将一
授業科目概要	歯科衛生士に最小限必要な臨床検査の方式を習得する。
目的	臨床検査の方法を学び、その正常値を学習し、臨床に役立てる。
学習目標	<p>①検査と歯科衛生士の役割を理解する。</p> <p>②検査の種類を学ぶ。</p> <p>③生体検査(体温・脈拍・血圧・経皮的動脈血酸素飽和度)の方法を理解する。</p> <p>④尿の一般知識と尿検査の意味を理解する。</p> <p>⑤採血法と血液検査の知識を得る。</p> <p>⑥血液型検査の方法を理解する。</p> <p>⑦貧血検査・出血性素因検査・感染症検査について理解する。</p> <p>⑧肝機能検査の最低限の知識を修得する。</p> <p>⑨糖尿病検査の知識を得る。</p> <p>⑩病理検査について理解する。</p> <p>⑪口腔領域における各種臨床検査の方法を理解する。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績, 出席状況, 受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」: 90点以上, 「優」: 80~89点, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 「臨床検査」(医歯薬出版)
留意事項	

授業計画

回	内容
1	<p>1章 臨床検査とは</p> <p>(1) 臨床検査の倫理と安全性</p> <p>(2) 臨床検査はなぜ必要か</p> <p>(3) どんな検査があるのか</p> <p>(4) 検査成績の読み方</p>
2	<p>2章 生体検査(生理機能検査)</p> <p>(1) 体温検査</p> <p>(2) 脈拍検査</p>

回	内 容
3	(3) 血圧検査 (4) 心機能検査 (5) 肺機能検査 (6) 筋電図検査
4	(7) 脳波検査 (8) 血中酸素濃度検査 3章 検体検査 (1) 血液を用いる検査 1.血液検査
5	2.血液凝固・線溶系検査 3.生化学検査
6	4.免疫・血清検査 5.血液型検査 6.その他の検査
7	(2) 感染症検査 (3) 病理検査
8	4章 口腔領域の臨床検査 (1) 口臭検査 (2) 味覚検査 (3) 歯科金属アレルギーの検査
9	(4) 舌の検査 (5) 口腔粘膜の検査 エックス線写真検査 マイクロスコープによる検査
10	まとめ

## 24. 医療保険事務

1 単位 (選択)

第 2 学年 (15 時間)

担当教員名	森川 厚子
授業科目概要	社会保障制度における医療保険の仕組みを理解し、歯科治療における保健請求事務知識を修得し、レセプト処理について理解する。
目的	医療保険の仕組みを学び、歯科衛生士として必要な保健請求事務の知識と技術を習得する。
学習目標	<p>社会保険の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 社会保障における医療保険制度を説明できる。</li> <li>* 医療保険制度における保健種別が説明できる。</li> <li>* 診療報酬請求事務の流れが説明できる。</li> </ul> <p>保険医療の実務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* カルテの略記号を説明できる。</li> <li>* カルテとレセプトの略記号の違いを説明できる。</li> <li>* 歯科診療報酬の請求：診療報酬明細書の一般的注意事項が説明できる。</li> <li>* 歯科診療報酬の請求：「保険者番号」「氏名」などの記載ルールを理解し、記入できる。</li> <li>* 歯科診療報酬の請求：「傷病名部位」の記載ルールを理解し、記入できる。</li> <li>* 歯科診療報酬の請求：「初再診」以下欄の記載ルールを理解し、記入できる。</li> <li>* 歯科診療報酬の請求：診療報酬請求書の記載ルールを理解し、記入できる。</li> <li>* 訪問診療における医療保険と介護保険の違いを説明できる。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第9版 (医歯薬出版)</p> <p>適時資料配布</p>
留意事項	

## 授業計画

回	内容
1	<p>社会保険の仕組み</p> <p>社会保障制度の概要、医療保険の仕組み</p> <p>老人保健の仕組み</p> <p>保険医療の組織、保険医療機関での責務</p> <p>カルテの読み方</p>
2	<p>保険医療の実務</p> <p>歯科診療報酬の請求</p> <p>一般的注意事項</p> <p>「保険者番号」欄などについて</p> <p>「傷病名各部」欄の記載のルール</p>

回	内 容
3	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 「基本診療料」について
4	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 「指導管理等」について
5	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 「投薬・注射」について 「画像診断」、「検査関連」について 「処置」について1
6	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 「処置」について2 「手術」、「麻酔」について 「歯冠修復および欠損補綴」について1
7	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 「歯冠修復および欠損補綴」について2
8	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 「歯冠修復および欠損補綴」について3
9	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 「在宅医療」について、診療報酬請求について
10	保険医療の実務 歯科診療報酬の請求 介護保険での居宅療養管理指導の請求

北海道歯科衛生士専門学校

昼間部 3 年生 シラバス

1. 口腔保健管理法

2 単位 (必修)

第 3 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士が臨床の場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を習熟するため、歯科予防処置論、歯科保健指導論の内容をさらに拡充・統合し、口腔保健管理能力を養う。
目 的	主要 3 科目である歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を総合的に捉え、歯科衛生士として臨床において行う業務に役立てる。
学 習 目 標	<p>【一般目標】</p> <p>対象者別に口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 口腔保健の意義を説明できる。</p> <p>② 対象を把握し予防管理法を説明できる。</p> <p>③ 病勢阻止のための継続管理の計画がたてられる。</p> <p>④ 生涯を通じた口腔保健管理の目的が言える。</p> <p>⑤ ライフステージごとの口腔保健管理計画がたてられる。</p> <p>⑥ 口腔の健康と全身の健康を理解し説明ができる。</p> <p>⑦ 食育の国家的取組みを理解し、ライフステージ毎の食育支援ができる。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</p> <p>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</p> <p>・ 筆記試験の成績、課題レポート、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</p> <p>・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下</p> <p>次の場合は、定期試験の成績から減点する。</p> <p>講義中、毎回居眠りをしている。</p> <p>講義中、私語が多い。</p>
教 材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 口腔保健管理 (医歯薬出版)、プリント</p>
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	<p>口腔保健の意義</p> <p>日常生活と口腔保健、食生活と口腔保健、歯科保健行動、歯科健康教育</p> <p>対象把握と予防管理</p>
2	<p>う蝕予防の臨床</p> <p>リスク評価</p> <p>フッ化物の応用</p>
3	<p>歯周疾患予防の臨床</p> <p>プラークコントロールの分類、歯周疾患と喫煙のリスク</p> <p>歯周疾患の継続管理</p>
4	<p>生涯を通じた口腔保健管理</p> <p>ライフステージ毎の口腔保健管理計画</p> <p>母子口腔保健</p> <p>小児期の口腔保健</p> <p>代用甘味食品に対する口腔保健管理</p> <p>口腔習癖に対する保健管理、外傷歯に対する保健管理</p>



回	内 容
5	ライフステージ毎の口腔保健管理 学童期（混合歯列期）、永久歯の保護、歯周組織の保健管理、思春期、成人期
6	ライフステージ毎の口腔保健管理 老年期
7	ライフステージ毎の口腔保健管理 特別な配慮が必要な人の口腔保健管理
8	口腔保健管理の実際 特別な配慮が必要な人の口腔内の状況と口腔保健管理
9	口腔保健管理の場の理解（施設、居宅訪問指導等）
10	口腔の健康と全身の健康
11	口腔観察と口腔清掃
12	業務記録 業務記録の目的と意義 業務記録の種類と形式
13	歯科保健行動 歯科保健行動がうまくいかない理由 口腔保健管理の演習のポイント 実習に向けて
14	口腔観察と口腔清掃 ブラークコントロールと補助清掃用具（各社電動歯ブラシ実習）
15	口腔観察と口腔清掃 ブラークコントロールと補助清掃用具（各社電動歯ブラシ実習）
16	口腔保健管理実習①
17	口腔保健管理実習②
18	口腔保健管理実習③
19	口腔保健管理実習④
20	まとめ

2. 予防的歯石除去法実習（3）

5単位（必修）

第3学年 1単位（30時間）

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	マネキン上で習得した歯石除去技術を口腔内で実践し、各種器具の使用法や術前後の処置、器材の後始末、メンテナンスなどについて習得する。
目的	歯石除去を口腔内で実践するために、歯石除去技術の向上を図り、患者の反応を見ながら施術する習慣を身につけさせる。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① マネキン上でキュレット操作ができる。</li> <li>② 相互実習により、鎌型スケーラーを使用して歯石除去ができる。</li> <li>③ 相互実習により、キュレット操作ができる。</li> <li>④ 相互実習により、歯面研磨ができる。</li> <li>⑤ 歯石除去後のメンテナンスができる。</li> <li>⑥ 個々の口腔内にあった方法で歯石除去できる。</li> <li>⑦ シャープニングができる。</li> <li>⑧ 症例検討の目的、進め方を説明でき、自ら症例検討ができる。</li> <li>⑨ 歯面清掃器、PMT Cの器材、目的、方法を説明できる。</li> </ol>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論（医歯薬出版） プリント配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す

授業計画

回	内 容
1～8	相互実習 歯周組織検査 鎌型スケーラー、キュレット 歯面研磨・口腔内洗浄
9～12	相互実習（患者実習） 歯周組織検査 鎌型スケーラー、キュレット 歯面研磨・口腔内洗浄
13～15	シヤープニング シヤープニング器械器具、方法、手用研磨、ポイント式研磨
16～18	マネキン実習・相互実習 歯面清掃器（エアフロー） PMTC
19	症例検討 症例検討の目的・進め方
20	総括・復習

3. 歯科保健指導実習 (3)

5単位 (必修)

第3学年 1単位 (30時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 専門的・基礎的知識を整理し、症例分析に役立てることができる</li> <li>* 対象別の歯科保健の知識がわかる</li> <li>* それぞれ対象別の問題点を理解し、個人に適した指導計画を立てることができる</li> <li>* 指導に必要とされる媒体などを正しく選択できる</li> <li>* カウンセリング技法を理解し、パラカウンセラーとして活用できる</li> <li>* 主事の歯科医師の指導方針を把握することができる</li> <li>* 患者や相談者の訴えを正確にとらえることができる</li> <li>* 全身状態や口腔の状態の特徴をつかむことができる</li> <li>* イニシャルプレパレーションの目的と定義が言える</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版)、プリント</p>
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1～8	対象者別体験指導法・計画検討実習
9～14	ブラッシング指導モデル実習
15～20	総合実習

## 4. 救急蘇生法

1 単位 (必修)

第 3 学年 (15 時間)

担当教員名	照井 章文
授業科目概要	心肺停止など歯科治療中に遭遇する可能性のあるさまざまな偶発症に関する知識と予防法、対処法に関する科目
目的	医療人として必要な救急蘇生法の知識を身につけ、歯科診療内外問わず起こりうる事態に対して予防あるいは適切に対応できる。
学習目標	全身状態を把握する手技を習得し、各種モニター方法について理解し、施行できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下</li> </ul>
教材	救急蘇生法実習モデル。最新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔」（医歯薬出版） プリント
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	歯科治療時に起こる各種全身的偶発症の原因と症状（1） 歯科治療の侵襲性と偶発症の起こる確率 血管迷走神経性反射、過換気症候群
2	歯科治療時に起こる各種全身的偶発症の原因と症状（2） アナフィラキシーショック、局所麻酔薬中毒、誤嚥と呼吸困難
3	歯科治療時における全身の評価とバイタルサイン（1） 術前評価法と歯科衛生士の役割 バイタルサインと測定法
4	歯科治療時における全身の評価とバイタルサイン（2） 心肺機能の把握、心電図
5	器械的モニタリング 自動血圧計・経皮的酸素飽和度測定計
6	全身的疾患を有する歯科患者について 歯科で遭遇しやすい疾患と対処（虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病気管支喘息）
7	救急措置（1） 歯科治療時における歯科衛生士の役割 酸素吸入、救急薬品
8	救急措置（2） BLS
9	実習（1） モニタリング
10	実習（2） BLS

## 5. 歯科診療補助実習(3)

5単位(必修)

第3学年 1単位 (30時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科診療補助で学習した基礎知識をもとに、歯科器材の取り扱い方、術者との共同動作、各分野における処置別歯科診療補助法を習得させる。学習した歯科診療補助技術の熟練度を確し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目的	これまでの知識を関連づけて、歯科診療補助論での基本知識をもとに歯科衛生士として必要な知識と技術を習得する。 卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯周治療、歯周外科の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 光重合型コンポジットレジン充填の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 根管充填の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 清潔・不潔の概念を理解し、困難抜歯やおもな小手術の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 小児歯科治療の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 麻酔抜髄・根管治療の術式がわかり、的確な介助ができる。</li> <li>・ 義歯装着時のセッティングができる。</li> <li>・ 寒天とアルジネート印象材の特性を理解し、連合印象採得の準備と説明ができる。</li> <li>・ 相互で連合印象採得ができる。</li> <li>・ 暫間被覆冠の目的を理解し、準備と手順が説明できる</li> <li>・ 暫間被覆冠を模型上で製作できる。</li> <li>・ 補綴物製作の流れを理解し、説明できる。</li> <li>・ 歯科器械のメンテナンスができる。</li> <li>・ 個々の患者にあった、適切な介助ができる。</li> <li>・ 就業にあたっての心構えをもてる。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	<b>【教科書】</b> 最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」第2版 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科材料」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論・歯科機器」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴学」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「口腔外科学・歯科麻酔学」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「小児歯科学」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正学」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「歯科放射線学」 (医歯薬出版) 適時資料配布
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。



授業計画

回	内 容
1、2	マネキン実習 寒天印象材、アルジネート連合印象
2、3	マネキン実習 義歯印象
4、5	暫間被覆冠作製実習 右上3番既製冠
6	歯科用材料の取り扱い 歯肉圧排
7、8	相互実習 歯肉圧排・寒天アルジネート連合印象・咬合採得
9～11	相互実習 アルジネート全顎印象・石膏注入（スタディモデル作製）
12、13	マネキン実習 ユージノール系セメント・ストップング・レジン系仮封材
14、15	暫間被覆冠作製実習 右上5番
16、17	暫間被覆冠作製実習 右上7番
18、19	暫間被覆冠作製実習 ⑦6⑤ Br
20	総合的実習

## 6. 臨地実習・臨床実習(3)

26単位(必修)

第3学年 13単位 (585時間)

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。</li> <li>② 患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。</li> <li>③ 受付応対事務ができる。</li> <li>④ 歯科予防処置ができる。</li> <li>⑤ 年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。</li> <li>⑥ 予診における歯科診療補助ができる。</li> <li>⑦ 歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑧ 歯周治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑨ 補綴治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑩ 口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑪ 矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑫ 小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑬ X線撮影の歯科診療補助ができる。</li> <li>⑭ 障害者歯科治療時の診療補助ができる。</li> <li>⑮ 訪問歯科治療時の診療補助ができる。</li> <li>⑯ 訪問歯科衛生指導ができる。</li> <li>⑰ 介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。</li> <li>⑱ 公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。</li> <li>⑲ 歯科技工所の役割、業務が理解できる。</li> </ol>
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 実習記録、レポート</li> <li>5. 臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度</li> <li>6. 出席状況</li> </ol> <p>以上により総合評価を行い可否判定する。</p> <p>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</p>
教材	<p>【教科書】</p> <p>これまでに使用したすべての教科書、プリント</p>
留意事項	<p>注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。</p> <p>実習に臨む心構えをきちんともたせ、礼儀作法や身だしなみに注意させる。</p>

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 見学実習
2	介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 見学実習
3	歯科予防処置 器材の準備と消毒・滅菌法、口腔内不潔度検査、歯口清掃指導、フッ化物歯面塗布法、フッ素洗口法、フッ化ジアンミン銀塗布法、小窩裂溝充填塞法、歯面研磨法、貼薬法、シャープニング、歯科疾患・口腔清掃に関する統計処理
4	歯科診療補助 <受付対応事務> 患者・訪問者の受付対応、電話の対応、診療申込書記入の指導、カルテの作成、患者誘導、経理事務 アポイント、リコール、服薬指導
5	歯科診療補助 <予診> 予診表の記載・整理・診査・検査用器材の準備と消毒・滅菌、診査表の記入、バイタルサイン、歯科保健指導
6	歯科診療補助 <歯科保存治療> 歯科保存治療用器材の準備と消毒・滅菌・歯科保存治療に用いられる薬剤、材料の準備と管理、バキューム操作法、ラバーダム防湿法、仮封操作、コンポジットレジン修復・インレー修復の診療介補と研磨法、歯髄鎮静・歯髄覆罩 歯髄除去・根管治療・根管充填法の介補、保存修復処置患者へのメンテナンス
7	歯科診療補助 <歯周治療> 歯周組織検査、歯周治療用器材の準備と消毒・滅菌、薬剤・材料の準備と管理、スケーリングとルートプレーニング 歯周ポケット搔爬術・歯肉切除術・歯肉剥離搔爬術・その他歯周外科の介補、術後のメンテナンス
8	歯科診療補助 <歯科補綴治療>
9	歯科診療補助 <口腔外科・歯科麻酔治療> 口腔外科治療用器械の準備と消毒・滅菌、口腔外科治療に用いる薬剤・材料の取り扱いと保管、膿瘍切開時・嚢胞摘出手術時・歯槽骨整形術時・外傷時の介補、救急蘇生法、感染患者への対応、口腔外科大手術の見学、病棟見学、術後のメンテナンス
10	歯科診療補助 <矯正歯科治療> 矯正治療用器械・材料の準備と消毒・滅菌法、スタディモデル作製、酸処理・歯面研磨、舌側弧線装置・床矯正装置 機能的矯正装置・保定装置装着時の介補、矯正歯科治療患者へのメンテナンス
11	歯科診療補助 <小児歯科>
12	歯科診療補助 X線撮影の補助、レントゲンの現像、管理
13	歯科診療補助 障害者歯科治療時の介補
14	訪問歯科診療 要介護者・障害者宅における歯科治療（義歯作製・修理、保存修復処置時他）の介補 訪問歯科保健指導 歯科口腔介護
15	歯科保健指導 歯科保健指導（狭義） 対象者別個別歯科保健指導
16	歯科保健指導 歯科保健教育 保健所：地域保健福祉センター総合オリエンテーション 幼稚園、保育園：幼児・母子（療育者）・保母に対する歯科保健教育、歯科検診介助
17	歯科技工所見学実習
18	歯科診療補助 予診 予診表の記載・整理・診査・検査用器材の準備と消毒・滅菌、診査表の記入、バイタルサイン、歯科保健指導

## 7. 摂食機能訓練法

1 単位 (選択)

第3学年 (15時間)

担当教員名	戸倉 聡
授業科目概要	超高齢社会の中で脳梗塞などの後遺症のため摂食機能低下がある患者が非常に多いこと、それらの人は形態的に義歯などを直した上で、摂食嚥下機能訓練をすることで誤嚥性肺炎を防ぐことが出来ることを理解させる。同様に障害者にも摂食機能訓練が必要な患者が多いことを理解させる。
目的	摂食機能療法を理解し、食事を与えるときに歯科医師の指示のもとで簡単な指導が出来るようにする。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食・嚥下障害者の方法が説明できる。</li> <li>2. 摂食・嚥下のメカニズムが説明できる。</li> <li>3. 摂食・嚥下の機能障害について説明できる。</li> <li>4. 摂食・嚥下障害の評価ができる。</li> <li>5. 要介護高齢者の摂食能力と摂食状況・機能障害状況について説明できる。</li> <li>6. 摂食・嚥下と温度並びに味覚情報について説明できる。</li> <li>7. 食物の物性は味わいにどう影響するのかが説明できる。</li> <li>8. 摂食・嚥下障害に対する栄養調理の対応について説明できる。</li> <li>9. 在宅における摂食・嚥下障害への対応について説明できる。</li> </ol>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績, 出席状況, 受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」: 90点以上, 「優」: 80~89点, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下</li> </ul>
教材	摂食・嚥下障害ベストナーシング (学研)
留意事項	

## 授業計画

回	内容
1	摂食・嚥下機能の基礎知識 (1) 摂食・嚥下障害とは 摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識
2	摂食・嚥下機能の基礎知識 (2) 摂食・嚥下機能のメカニズム
3	摂食・嚥下機能の検査
4	摂食・嚥下機能の診断・評価

回	内 容
5	摂食・嚥下リハビリテーションの基礎知識
6	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（1） 摂食・嚥下訓練の基礎知識
7	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（2） 摂食・嚥下訓練の方法 間接訓練（基礎訓練）
8	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（3） 摂食・嚥下訓練の方法 直接訓練（摂食訓練）
9	発達障害児における摂食・嚥下リハビリテーション
10	介護予防

## 8. 口腔筋機能訓練法

1 単位 (選択)

第3学年 (15時間)

担当教員名	夏原 弥生
授業科目概要	歯並びの悪い人、発音の悪い人、口元の美しくない人は、唇、頬や舌などの口腔に係わる筋肉のバランスがとれていない人であることを理解させる。また、その原因の多くは、遺伝的なものではなく後天的なものであることを理解させる。さらに、後天的要因の多くは、食育と密接に関わっていることを学ぶ。
目的	悪習癖と正常な状態について理解し、悪習癖を取り除くことによって、それに起因する歯列不正を改善できるよう指導ができるようになる。
学習目標	正しい舌の位置、使い方、口唇筋の訓練法を学び正しい発音について理解し、自分でもできるようにする。また、食育の大切さを人に伝えられるようにする。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正学 (医歯薬出版) 舌のトレーニング (わかば出版) プリント スプレーボトル (容量が400ml程度のもの)、タコ糸、手鏡 (顔全体が映るくらいの大きさ)、ストローボタン (直径25mm、厚さ約2mm)、木製のヘラ3本 (アイスクャンディーの棒で可)
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	口腔筋機能療法とは。まず、自分の状態を知る。 診査 口腔筋機能療法の定義・歴史
2	舌のトレーニング レッスン1 リップエクササイズ 正常な舌の位置と正常嚥下 異常な舌の位置と異常嚥下 舌突出のタイプ
3	舌のトレーニング レッスン2 リップエクササイズ 舌癖になる原因
4	舌のトレーニング レッスン3 リップエクササイズ 口呼吸と舌の位置関係
5	舌のトレーニング レッスン4 リップエクササイズ 発音練習
6	舌のトレーニング レッスン5 リップエクササイズ 表情筋の種類 パタカラ くちびる体操
7	舌のトレーニング レッスン6
8	舌のトレーニング レッスン7
9	舌のトレーニング レッスン8
10	ベーシックエクササイズ レッスン1～8

## 9. 看護学総論

1 単位 (選択)

第3学年 (15時間)

担当教員名	村田 和枝
授業科目概要	歯科衛生士に専門職として必要な看護に関する主要概念を学び、看護実践の基礎となる知識、技術、態度の重要性を理解します。
目的	①看護学の基本を理解する。 ②意欲・関心を高め、看護師との連携に役立てることができる。
学習目標	一般目標 ① 医療チームとしての連携と看護の継続性の必要性を理解する。 ② 対象の安全・安楽・人権尊重に視点をいた関わり方の重要性を理解する。 ③ 看護の概念と科学的根拠に基づく看護の考え方を理解し連携の重要性を考える。 到達目標 1. 看護の歴史の変遷について、理解し看護とは何か考えることができる。 2. 看護の責務と専門職として求められる倫理観について、説明ができる。 3. 看護の対象である人間理解の重要性について、説明ができる。 4. バイタルサインについて、説明ができる。 5. バイタルサインを正しく測定することができる。 6. 看護におけるコミュニケーションの重要性について説明ができる。 7. 健康観の変遷、WHOの健康の定義や健康状態の評価について、理解ができる。 8. STDの正しい知識を持ち、健康管理や感染防止について、考えることができる。 9. 薬理作用や取り扱いについて考えることができる。 10. 看護管理の看護体制や医療安全、感染対策の説明ができる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	テキスト配布
留意事項	小テストを用いて必ず復習すること

## 授業計画

回	内容
1	看護の概念 看護の歴史、看護の定義、看護の目標、基本的役割
2	看護倫理 専門職に必要な倫理観、医療事故
3	看護技術 バイタルサインの意味、測定の手技



回	内 容
4	看護技術 バイタルサインの実践
5	看護技術 コミュニケーション技術
6	看護の対象 人間の「心」と「体」、生涯発達し続ける存在としての人間理解
7	看護と健康 健康観とは、生活健康、健康持続・増進のシステムとその看護
8	看護と健康 身近な STD の正しい知識と健康管理
9	看護と薬理学 薬物動態、作用・副作用の観察、ハイリスクな薬剤、薬物依存
10	看護管理 看護体制、看護方式、医療安全、感染防止対策など

## 10. 総合学習 I

1 単位 (選択)

第 3 学年 (15 時間)

担当教員名	吉田 重光 中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	基礎分野、専門基礎分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、知識の統合を図る。
目的	基礎分野、専門基礎分野の知識をまとめ、総合的に捉えることで、科学的・論理的思考能力を育成する。
学習目標	生命科学等の理解を深め、人体ならびに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防法と回復過程に関する知識をまとめ、観察力、判断力を培う。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下</li> </ul>
教材	基礎分野、専門基礎分野で使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留意事項	

## 授業計画

回	内容
1～10	教員のもとで、各自がまとめを行う。

1 1. 総合学習Ⅱ

2 単位 (選択)

第 3 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授 業 科 目 概 要	専門分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、論理、技術の統合を図る。
目 的	専門分野の知識をまとめ、総合的に捉え、臨床の場面に適応できる能力を育成する。
学 習 目 標	歯科医療を科学的、論理的に理解し、論理と実践を結びつけて理解できる能力を培う。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・ 「秀」：90 点以上, 「優」：80～89 点, 「良」：70～79 点, 「可」：60～69 点, 「不可」：59 点以下</li> </ul>
教 材	専門分野で使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～20	教員のもとで、各自がまとめを行う。

## 12. 総合学習Ⅲ

2単位（選択）

第3学年（30時間）

担当教員名	吉田 重光 中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	理論的思考力を養うため、これまでに学んだ中から学生が各自で研究テーマを考え、それについての理解を深める。
目的	知識をまとめる力を身につける。
学習目標	自分で知識の整理、まとめを行い、歯科衛生士として将来必要となる科学的思考力を養う。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留意事項	

## 授業計画

回	内容
1～20	教員のもとで、各自がまとめを行う。

13. 総合学習Ⅳ

2単位（選択）

第3学年（30時間）

担当教員名	吉田 重光 中村 麻希 益田 友美 関口 陽子 安藤 貴美 名塚 有香 松崎 里美 山田 早希
授業科目概要	3年間で学んだことを集約する。多くの断片的歯科医学知識を立体的に組み立て、実際に臨床で有効に使えるようにする。
目的	知識と技術の統合を目的とする。
学習目標	歯科衛生士業務の範囲内では自分の判断、自分の考えが求められる。そのためにみんなで議論をし自分の考えを述べる訓練をし、それが出来るようになる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する</li> <li>・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う</li> <li>・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。</li> <li>・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下</li> </ul>
教材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留意事項	

授業計画

回	内容
1～20	3年間で学んだ知識・技術の集大成を行う。